

特集 麻生区の投票状況

麻生区における平成29年以降の選挙投票率をみると、最も多いのは令和3年衆議院議員総選挙で投票率62.59%となっており、次いで令和4年参議院議員通常選挙が60.10%、平成29年衆議院議員総選挙が58.32%の順となっている。

期日前投票に関する数値をみると、全ての選挙で全体の投票数に対する比率が20%を超えており、特に国政選挙になると2万人以上の方々が、期日前投票制度を利用している。

麻生区の投票者数

選挙名	投票者数					投票者総数に対する期日前比	人口※1	有権者数	投票率
	麻生区役所	柿生分庁舎	不在者 (在外含む)	選挙当日	総数				
平成29年衆議院・川崎市長選挙等※2	27,790	4,952	546	50,983	84,271	38.85%	177,238	144,505	58.32%
平成31年統一地方選挙※3	14,584	2,884	264	45,680	63,412	27.55%	179,092	143,994	44.04%
令和元年参議院通常選挙※4	22,114	3,935	475	52,489	79,013	32.97%	179,590	146,705	53.86%
令和3年衆議院・川崎市長選挙等※2	26,895	4,725	588	60,859	93,067	33.98%	181,010	148,703	62.59%
令和4年参議院通常選挙※4	27,760	5,021	640	55,961	89,382	36.68%	181,139	148,733	60.10%

※1：公示・告示日が属する月の1日現在

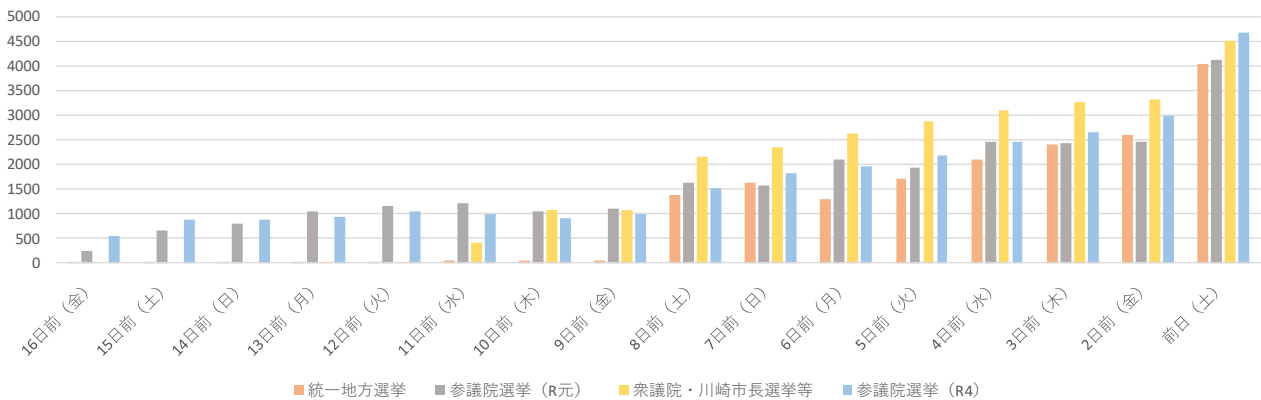
※2：衆議院小選挙区選挙

※3：神奈川県知事選挙

※4：参議院神奈川県選出議員選挙

麻生区における期日前投票利用者は、投票日当日に向かって増加していく傾向があり、特に前日の土曜日については、非常に混雑していることがわかる。また、時間帯別の傾向をみると、正午に向かって混雑する傾向となっている。

麻生区期日前投票者数



麻生区役所期日前投票状況 (令和4年参議院選挙)

麻生区役所期日前投票状況	8時30分～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	19時～	計
6月23日	17	27	46	33	31	30	29	36	28	8	17	13	315
6月24日	16	65	81	59	69	45	51	31	38	35	30	28	548
6月25日	26	83	102	114	98	109	60	76	76	57	40	31	872
6月26日	26	94	110	108	100	95	86	72	84	43	30	32	880
6月27日	26	76	157	145	91	102	90	62	78	44	50	32	953
6月28日	30	119	166	153	111	68	91	69	79	72	51	36	1,045
6月29日	34	110	131	151	118	95	77	69	80	49	38	49	1,001
6月30日	25	80	127	144	109	66	87	71	76	46	40	33	904
7月1日	20	95	134	114	98	88	93	83	81	62	64	51	983
7月2日	37	122	142	196	139	133	129	143	137	150	123	62	1,513
7月3日	60	120	241	217	195	162	196	175	160	133	94	78	1,831
7月4日	28	134	263	249	212	208	209	176	135	121	123	94	1,952
7月5日	43	198	312	292	233	189	190	207	165	116	155	95	2,195
7月6日	33	170	314	281	251	214	285	229	164	195	170	158	2,464
7月7日	34	199	333	348	238	232	210	208	218	195	267	168	2,650
7月8日	58	197	295	300	286	239	236	268	240	285	343	230	2,977
7月9日	130	265	433	432	368	394	402	436	474	513	453	377	4,677

柿生分庁舎期日前投票状況 (令和4年参议院選挙)

柿生分庁舎期日前投票状況	8時30分～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	19時～	計
6月23日	4	9	18	17	8	12	17	3	7	6	15	3	119
6月24日	7	12	36	23	10	8	10	4	13	6	15	5	149
6月25日	12	18	40	35	15	27	32	20	18	14	8	9	248
6月26日	3	17	34	30	17	36	19	14	13	13	15	12	223
6月27日	3	16	22	16	14	13	12	10	6	11	9	6	138
6月28日	6	15	28	12	13	14	13	13	11	3	9	14	151
6月29日	5	20	26	26	6	8	14	15	11	14	11	11	167
6月30日	7	21	21	28	8	9	11	6	13	16	9	7	156
7月1日	5	11	17	20	4	10	6	7	18	19	11	6	134
7月2日	4	25	46	42	18	22	36	16	22	29	21	6	287
7月3日	4	36	44	38	46	32	39	27	48	27	28	5	374
7月4日	3	16	56	37	32	32	22	25	13	17	14	13	280
7月5日	12	36	55	48	26	19	24	36	17	18	24	12	327
7月6日	5	22	50	47	21	24	24	30	21	22	30	21	317
7月7日	7	26	46	53	36	32	33	47	34	39	39	38	430
7月8日	18	52	62	60	26	32	25	40	43	41	44	32	475
7月9日	30	43	81	95	76	82	111	75	113	106	108	126	1,046

令和4年の参议院議員通常選挙における麻生区の当日投票所は、小中学校を中心に19か所設置されており、混雑状況については、14か所は午前中にピークを迎えている。また、夏の選挙ということもあり、12時から16時の来場者が最も少ない投票所は13か所となっており、気温の高い時間帯の混雑が少なくなっている。また、7時台に最小となる投票所も4か所となっているが、18時以降に来場者が最多になっている投票所も5個所あるため、注意を要する。(※18時以降は集計時間が1時間単位ではないため、最小の計上からは除外している)

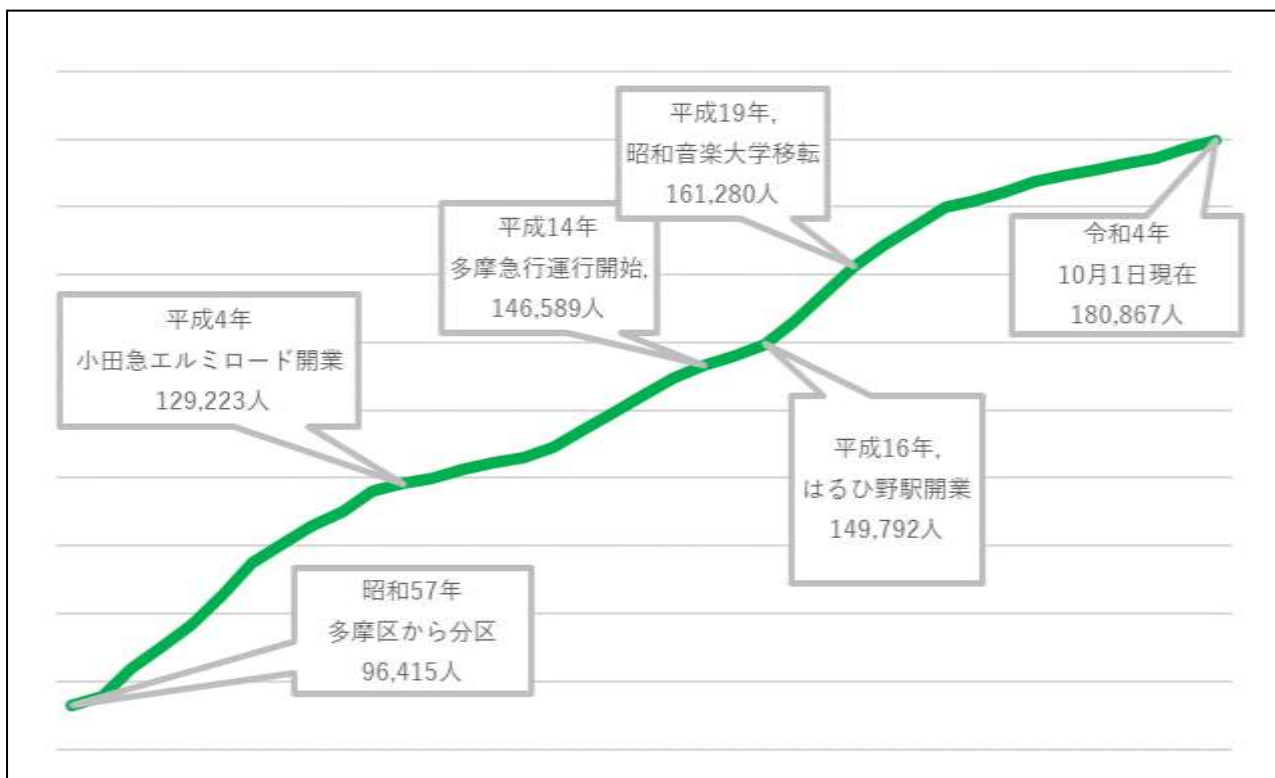
7月10日 当日投票所 投票状況 (令和4年参议院選挙)

	7時～	8時～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	18時30分～	計
長沢中学校	204	233	329	303	284	191	116	158	149	176	236	162	258	2,799
サンラフレ百合ヶ丘	142	130	199	306	304	197	186	196	187	231	285	84	250	2,697
西生田中学校	128	150	213	264	172	118	113	104	116	152	210	99	195	2,034
西生田小学校	198	215	301	333	279	201	178	189	175	232	331	140	353	3,125
千代ヶ丘小学校	163	205	283	348	253	207	137	138	140	193	269	113	267	2,716
金程小学校	170	180	290	268	258	157	169	128	149	167	225	106	286	2,553
麻生小学校	191	283	329	422	383	305	306	337	298	346	420	212	464	4,296
百合丘小学校	162	191	280	437	370	259	244	199	217	242	302	129	313	3,345
南百合丘小学校	239	240	351	440	315	154	180	166	185	272	336	172	334	3,384
玉禅寺中央小学校	222	239	366	406	261	183	174	147	141	241	286	124	330	3,120
虹ヶ丘小学校	132	145	211	259	133	99	105	82	83	112	152	60	139	1,712
東柿生小学校	183	202	264	300	207	189	121	143	109	189	186	120	255	2,468
真福寺小学校	206	251	319	349	329	199	162	151	171	199	281	119	245	2,981
麻生区役所柿生分庁舎	138	166	241	327	320	213	197	163	177	250	282	119	283	2,876
柿生小学校	114	155	237	294	244	184	154	156	154	211	205	94	235	2,437
白鳥中学校	391	342	368	354	294	236	203	196	187	283	323	142	494	3,813
栗木台小学校	218	256	339	335	303	184	155	184	152	201	323	166	383	3,199
岡上小学校	123	178	251	229	227	151	116	130	132	136	159	70	198	2,100
はるひ野小中学校	211	258	367	480	410	285	256	281	242	371	404	231	510	4,306

1 麻生区の人口と世帯数の推移

麻生区は、昭和57年7月1日、川崎市の行政区再編によって、多摩区から分区して誕生している。新百合ヶ丘駅の北側には、麻生区役所、市民館、図書館、消防署、川崎市アートセンターなどの公共施設があり、また、南側には大型ショッピングセンター、シネマコンプレックスなどからなる商業地域が形成されている。

麻生区の人口推移及び主な出来事



川崎市及び麻生区の人口推移

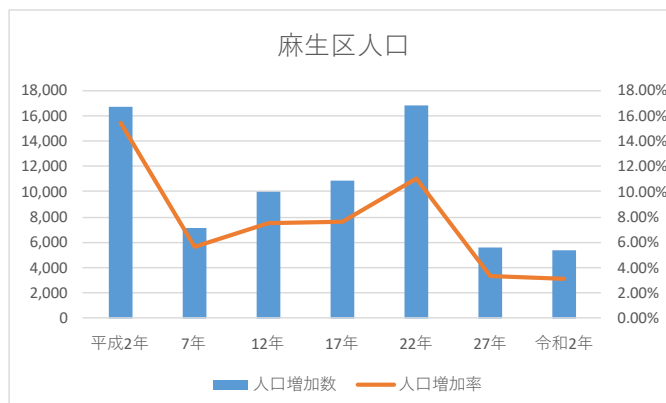
(各年10月1日)

	(57年7月1日)	昭和60年	7年	12年	17年	22年	27年	令和元年	令和2年	4年
川崎市人口	1,055,509	1,088,624	1,202,820	1,249,905	1,327,011	1,425,512	1,475,213	1,530,457	1,539,081	1,540,890
麻生区人口	96,415	108,353	132,240	142,238	153,101	169,926	175,523	179,879	180,889	180,867

麻生区における5年毎の人口増加数をみると、分区以降伸び続け平成22年国勢調査では16,825人、10.99%増加したものの、平成27年及び、令和2年実施の国勢調査では、増加率が鈍化している。

麻生区の人口推移 (各年10月1日)

	人口増加数	人口増加率
平成2年	16,774	15.48%
7年	7,113	5.68%
12年	9,998	7.56%
17年	10,863	7.64%
22年	16,825	10.99%
27年	5,597	3.29%
令和2年	5,366	3.06%



麻生区の主要駅である新百合ヶ丘駅を利用する乗車人数をみると、平成28年から令和元年まで増加しているが、行動制限が採られた令和2年は、他（表中の）駅と同様に乗車人員が減少しており、前年から17,015人の減（25.76%減）となっている。

主要駅の1日平均乗車人員

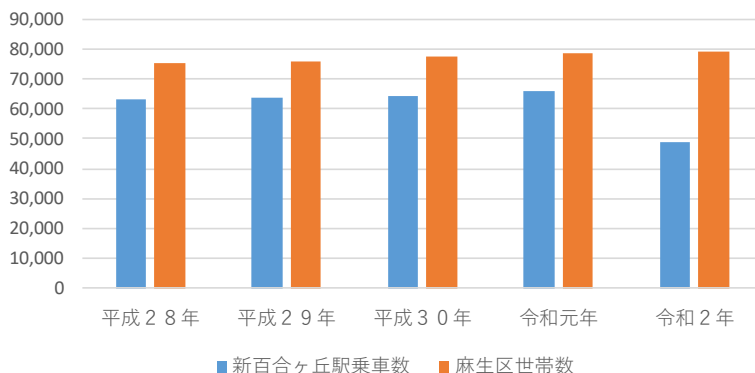
（単位：人）

駅名	駅名	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
京浜急行	京急川崎	62,656	64,190	65,481	66,950	52,095	
J R 東日本	川崎	209,480	211,896	214,601	215,234	159,802	
	新川崎	27,264	28,820	29,407	30,255	21,904	
	武蔵小杉	128,079	129,637	130,752	129,194	88,994	
	武蔵溝ノ口	84,575	85,355	86,346	86,165	63,796	
	登戸	81,664	81,781	82,715	82,838	59,017	
	稲田堤	26,253	26,259	26,420	26,453	19,634	
	登戸	81,104	81,339	82,996	85,538	63,182	
小田急	新百合ヶ丘	62,981	63,727	64,251	66,062	49,047	
	向ヶ丘遊園	33,283	33,666	33,647	34,337	22,954	
	東急	溝の口	152,992	155,631	157,390	159,823	118,373
		武蔵小杉	110,183	112,156	112,513	113,884	82,403
		元住吉	32,554	33,174	33,913	34,581	26,547
		鷺沼	30,898	31,092	31,242	31,707	24,130
宮前平		26,017	26,344	26,709	27,032	20,464	
京王	京王稲田堤	26,840	27,356	28,054	28,902	21,871	

*京浜急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、小田急電鉄株式会社、東急電鉄株式会社、京王電鉄株式会社

*JR東日本は、各年度の1日平均乗車人員を表したものの。

新百合ヶ丘駅乗車数・麻生区世帯数比較



	新百合ヶ丘駅乗車数	麻生区世帯数
平成28年	62,981	75,131
平成29年	63,727	75,999
平成30年	64,251	77,294
令和元年	66,062	78,602
令和2年	49,047	79,395

2 世帯数と人口の状況

麻生区の世帯数は、平成27年以降、毎年増加傾向にあり、令和3年には 80,371世帯となり、6年間で 6,220世帯、8.39%増加している。

また、人口は平成27年の 175,523人から令和3年には 181,010人となり6年間で 5,487人、3.13%増と増加傾向が継続している。

人口動態と人口増加率をみると、平成27年には自然動態（※出生と死亡の差）が 257人増、社会動態（※転入と転出の差）が 516人増で、人口動態は 773人、0.49%増加、平成27年から平成29年までは増加数が1千人を下回っており、増減率も0.5%前後で推移していたが、平成30年には自然動態の増加幅が 23人と低減する中、社会動態は大幅な転入超過により 1,487人増加し、人口動態は 1,510人、0.84%増となっている。また、令和元年の自然動態は 58人の死亡超過に転じる中、社会動態は転入超過が継続して 1,189人の転入超過となり、人口動態は 1,131人、0.63%増加している。

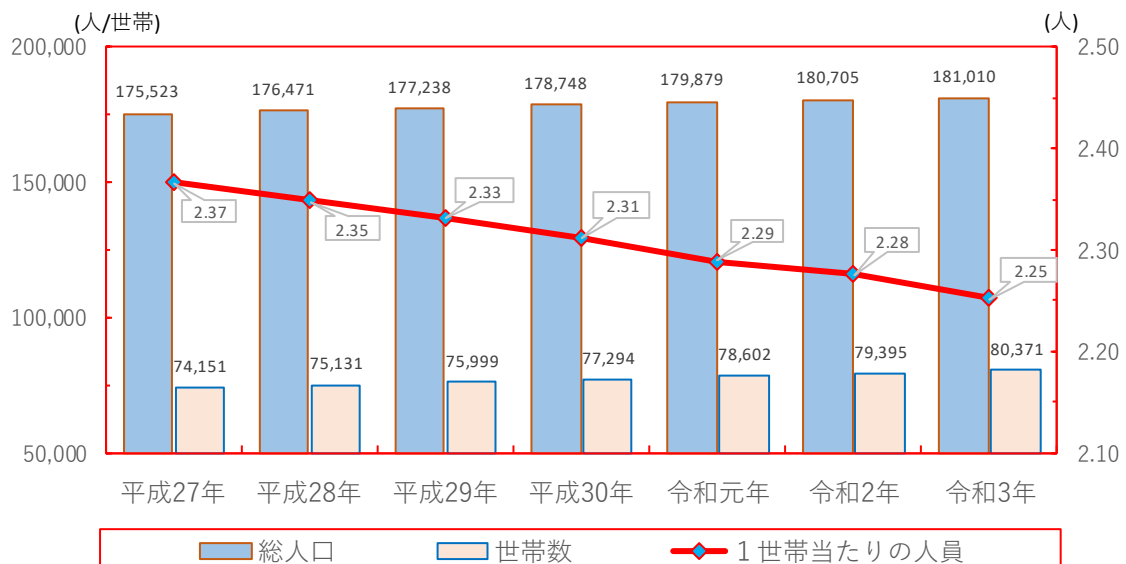
人口密度(1km²当たり)をみると、平成27年の 7,595人から毎年微増傾向が継続し、令和3年には 7,833人となり、6年間で 238人、3.13%増加している。

1世帯当たりの人員をみると、平成27年の2.37人からほぼ横ばいの状態で推移しており、令和3年は 2.25人となり、6年間で 0.12人減少している。

麻生区の世帯数と人口、人口動態等の推移（各年10月1日現在）

区 分	世帯数	人口			人口動態			人口増加率(%)	人口密度(1km ² 当たり)	世帯人員(1世帯当たり)
		総人口	男	女	増減	自然動態	社会動態			
平成27年	74,151	175,523	85,491	90,032	773	257	516	0.49%	7,595	2.37
平成28年	75,131	176,471	85,886	90,585	948	196	752	0.54%	7,636	2.35
平成29年	75,999	177,238	86,160	91,078	767	39	728	0.43%	7,669	2.33
平成30年	77,294	178,748	86,653	92,095	1,510	23	1,487	0.84%	7,735	2.31
令和元年	78,602	179,879	87,091	92,788	1,131	-58	1,189	0.63%	7,784	2.29
令和2年	79,395	180,705	87,391	93,314	806	-126	932	0.46%	7,819	2.28
令和3年	80,371	181,010	87,359	93,651	305	-231	536	0.17%	7,833	2.25

麻生区の世帯数と人口、世帯人員の推移（各年10月1日現在）



市全体の世帯数をみると、令和3年の世帯数は 769,611世帯で前年比 6,798世帯、0.89%増加しているが、令和3年の人口は 1,521,796人（男 769,673人、女 752,123人）で前年比 692人（男 600人減、女 1,292人増）の増加となっている。

人口動態をみると、令和3年は 692人の微増となっており、自然動態では「死亡」が「出生」を156人超過しているものの、社会動態では「転入」が「転出」を 848人超過しており、人口増加が続いている。また、人口密度(1km²当たり)は 10,542人となっている。

区別に世帯数をみると、最も多いのは中原区の 135,754世帯（構成比 17.64%）で、次いで川崎区が 129,152世帯（同 16.78%）、高津区が 115,894世帯（同 15.06%）の順となっており、この3区で全体の 49.48%を占めている。また、麻生区は 82,877世帯で最も少なくなっている。

人口をみると、最も多いのは中原区の 259,945人（構成比 17.08%）で、次いで宮前区が 233,967人（同 15.37%）、川崎区が 232,583人（同 15.28%）の順となっており、この3区で全体の 47.74%を占めている。また、麻生区は 178,514人で、最も少ない幸区の 171,957人に次いで2番目に少なくなっている。

人口動態をみると、最も増加しているのは多摩区の 1,366人で、自然動態が 95人増、社会動態が 1,271人増と、増加しており、次いで宮前区が 612人、中原区が 297人の順となっている。また、1,917人の減となっている川崎区に次いで、麻生区は31人の減で2番目に少なくなっている。川崎区と麻生区の自然動態は「死亡」が「出生」を超過し、それぞれ 1,045人、247人の減少となっている。

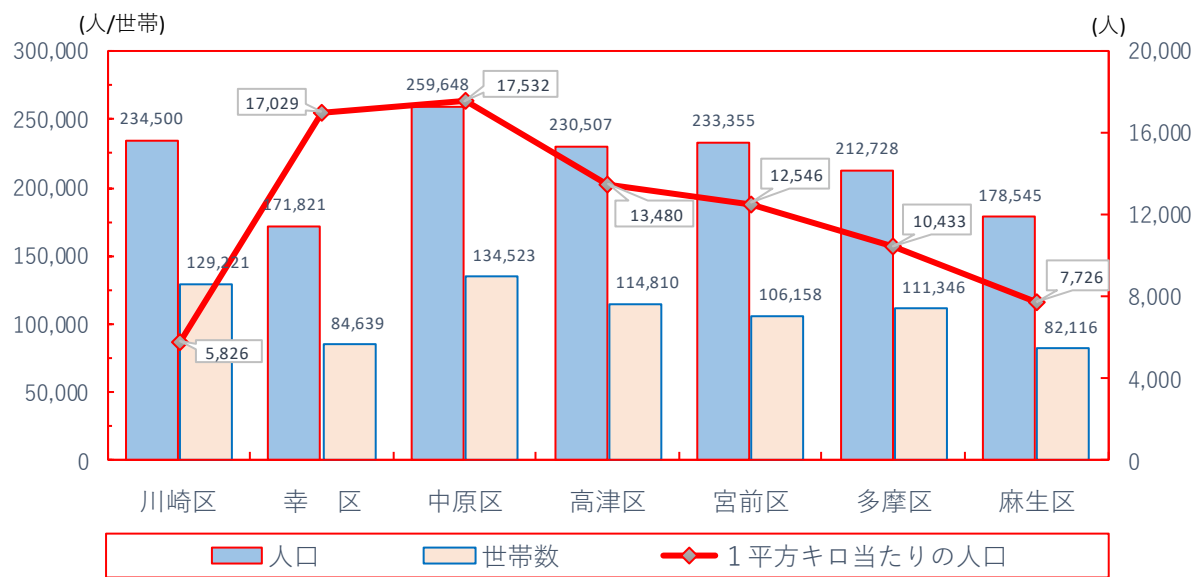
人口増加率をみると、最も高いのは多摩区の 0.64%で、次いで宮前区が 0.26%、中原区が 0.11%の順となっており、麻生区は -0.02%で、2番目に低くなっている。

人口密度(1km²当たり)をみると、最も多いのは中原区の 17,552人で、次いで幸区が 17,042人、高津区が 13,493人の順となっており、川崎区(5,778人)が工場地帯、コンビナート地域があるため最も低く、次いで麻生区が 7,725人と2番目に低く、特別緑地保全地区や農業振興地域など緑豊かな地域の影響が大きいなど、区の特徴となっている。

区別の世帯数と人口、人口動態等の状況（令和3年12月末日現在）

区 分	世帯数	人口			人口動態			人口 増加率(%)	人口密度 (1km ² 当たり)	面積 (平方キロ)
		総数	男	女	増減	自然動態	社会動態			
全 市	769,611	1,521,796	769,673	752,123	692	-156	848	4.55%	10,542	144.35
川崎区	129,152	232,583	125,332	107,251	-1,917	-1,045	-872	-0.82%	5,778	40.25
幸 区	85,055	171,957	87,411	84,546	136	23	113	0.08%	17,042	10.09
中原区	135,754	259,945	131,140	128,805	297	890	-593	0.11%	17,552	14.81
高津区	115,894	230,736	115,451	115,285	229	167	62	0.10%	13,493	17.10
宮前区	107,465	233,967	114,866	119,101	612	-39	651	0.26%	12,579	18.60
多摩区	113,414	214,094	108,737	105,357	1,366	95	1,271	0.64%	10,500	20.39
麻生区	82,877	178,514	86,736	91,778	-31	-247	216	-0.02%	7,725	23.11

区別の世帯数と人口、人口密度の状況（令和3年12月末日現在）



3 人口動態の状況

麻生区の人口動態をみると、自然動態は平成27年以降、「出生」が「死亡」を上回っており増加傾向が継続していたが、平成30年に「出生」が1,339人に対し、「死亡」が1,386人で47人の減少に転じている。また、令和元年には出生数が36人減少したのに対し、死亡数は14人増加したことにより97人減と減少幅が拡大し、令和3年には、出生数が71人減少したのに対し、死亡数は50人増と減少幅がさらに拡大している。

社会動態は、平成8年以降増加が続いており、平成27年以降、令和3年を除き「転入」が1万人以上いる中、「転出」は9千人台で推移しており、「転入」超過が継続している。また、平成30年は「転入」超過により1,570人増した。

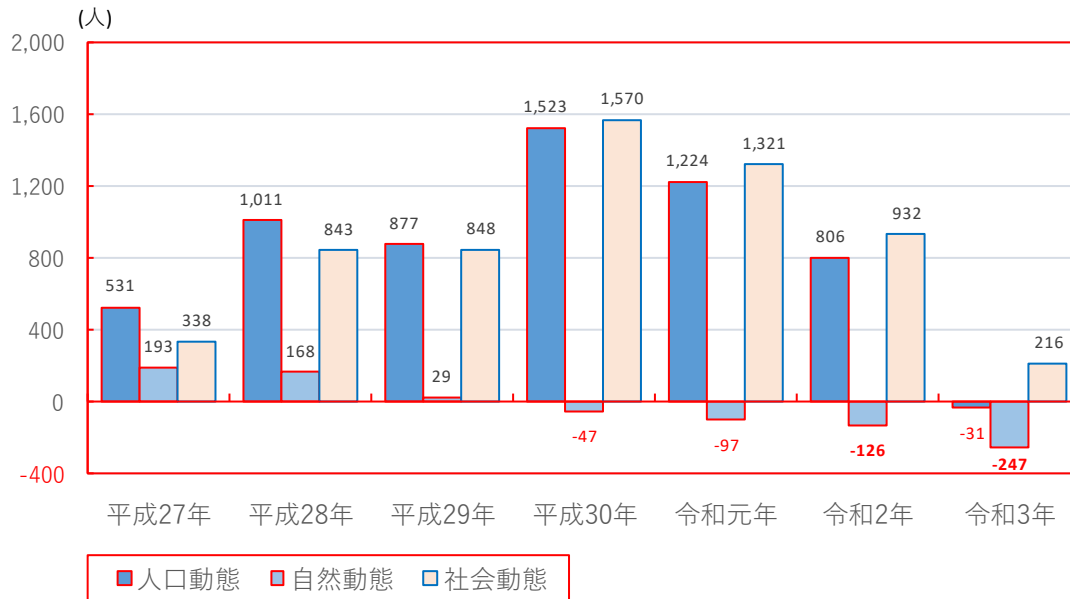
令和元年も引き続き1,321人増と、「転入」の超過が人口の増加に寄与しているが、令和2年、3年は、それぞれ転入数が前年と比べて減少している。

麻生区の人口動態の推移（各年1月～12月）

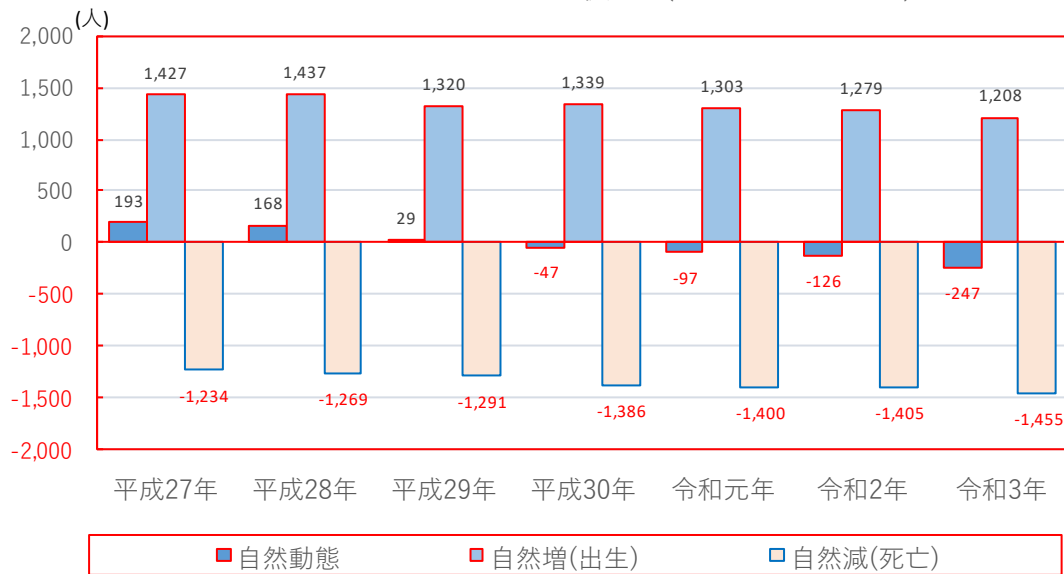
区 分	人口動態	自 然 動 態			社 会 動 態		
		増減	出生	死亡	増減	転入	転出
平成27年	531	193	1,427	1,234	338	10,317	9,979
平成28年	1,011	168	1,437	1,269	843	10,478	9,635
平成29年	877	29	1,320	1,291	848	10,427	9,579
平成30年	1,523	-47	1,339	1,386	1,570	10,929	9,359
令和元年	1,224	-97	1,303	1,400	1,321	11,028	9,707
令和2年	806	-126	1,279	1,405	932	10,443	9,511
令和3年	-31	-247	1,208	1,455	216	9,810	9,594

※ 「住民基本台帳法」及び「戸籍法」の届出による日本人及び外国人住民の動態をまとめている。

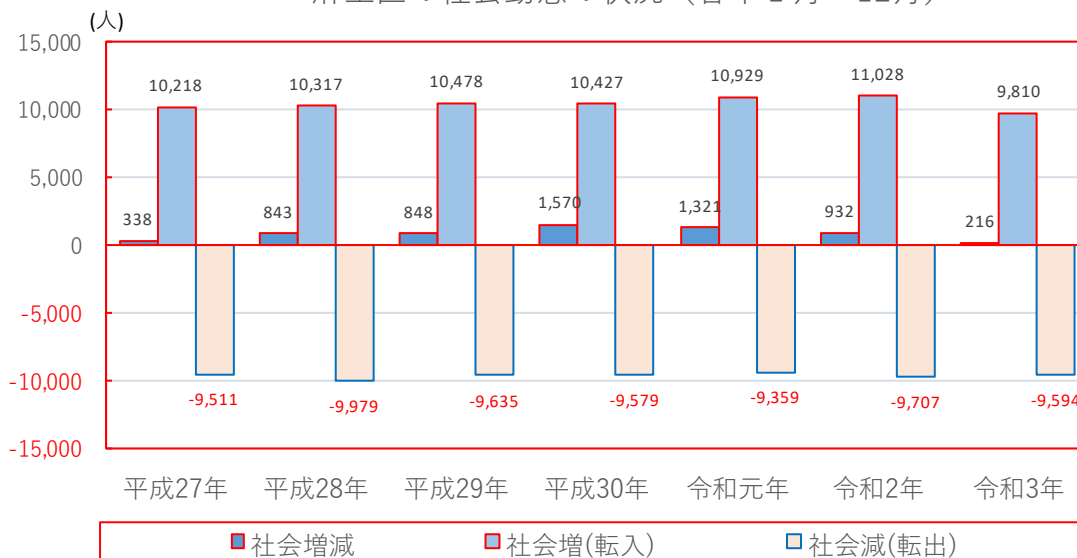
麻生区の人口動態の推移（各年1月～12月）



麻生区の自然動態の状況（各年1月～12月）



麻生区の社会動態の状況（各年1月～12月）



市全体の人口動態をみると、自然動態は「出生」12,279人（前年比 660人減）に対し、「死亡」が 12,435人（同 709人増）で 156人減（同 1,369人減）となっており、また社会動態は「転入」102,481人（前年比 1,778人減）に対し、「転出」が 101,633人（同 3,468人増）で 848人増（同 5,246人減）となっている。

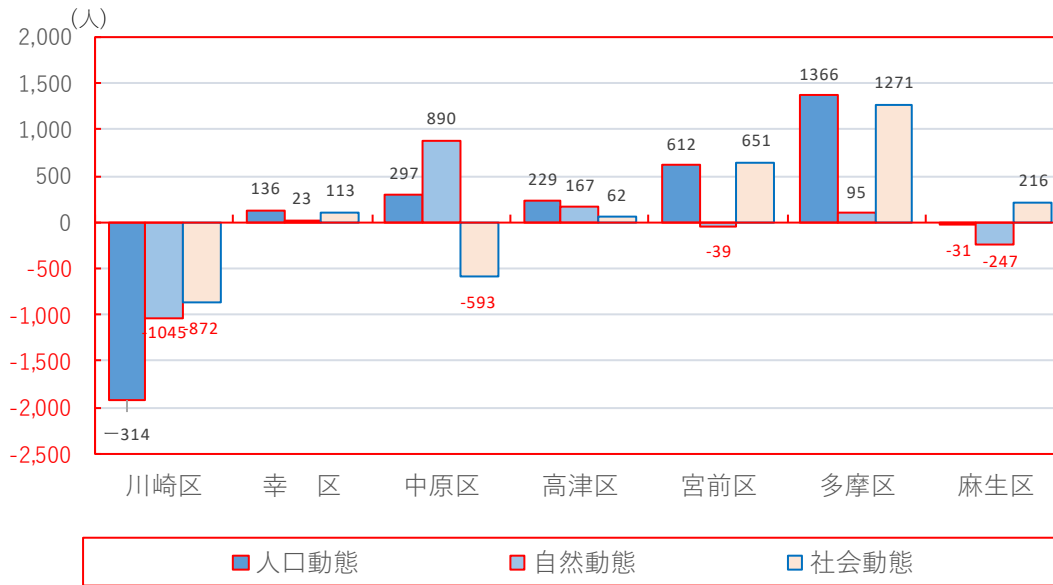
区別の人口動態では、川崎区、麻生区以外の5区は増加となっており、自然動態をみると、麻生区 247人減と川崎区 1,045人減の2区で減少している一方、他の5区で増加しており、最も増加している中原区では「出生」が 2,579人に対し、「死亡」が 1,689人で、890人増となっている。

社会動態をみると、川崎区、中原区以外の区で「転入」が「転出」を上回っており、最も増加している多摩区は1,271人増で、次いで宮前区が 651人増、麻生区が 216人増の順となっている。

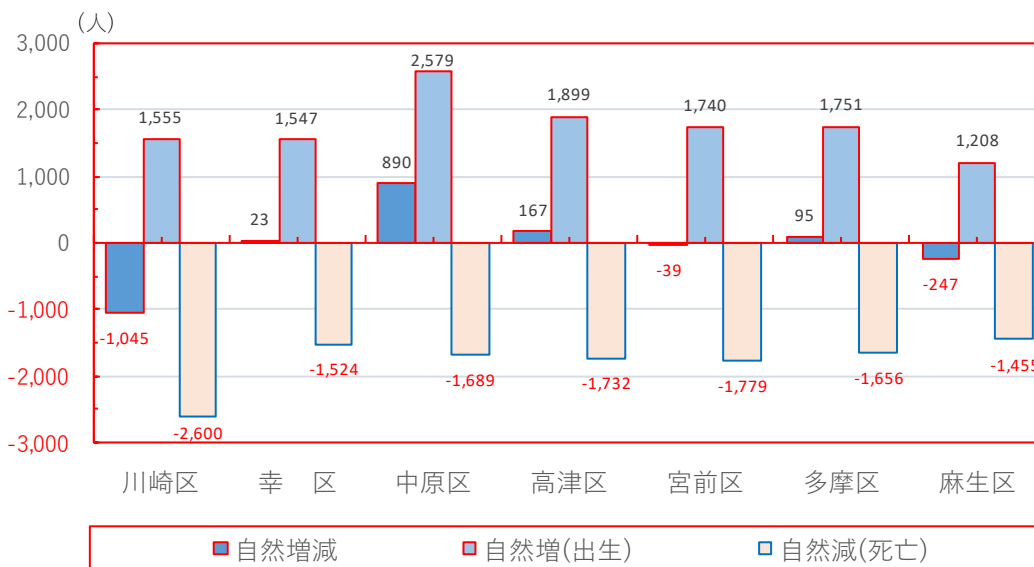
区別の人口動態の状況（令和3年1月～令和3年12月）

区 分	人口動態	自 然 動 態			社 会 動 態		
		増減	出生	死亡	増減	転入	転出
全 市	692	-156	12,279	12,435	848	102,481	101,633
川崎区	-1,917	-1,045	1,555	2,600	-872	14,603	15,475
幸 区	136	23	1,547	1,524	113	10,638	10,525
中原区	297	890	2,579	1,689	-593	21,013	21,606
高津区	229	167	1,899	1,732	62	16,284	16,222
宮前区	612	-39	1,740	1,779	651	13,772	13,121
多摩区	1,366	95	1,751	1,656	1,271	16,361	15,090
麻生区	-31	-247	1,208	1,455	216	9,810	9,594

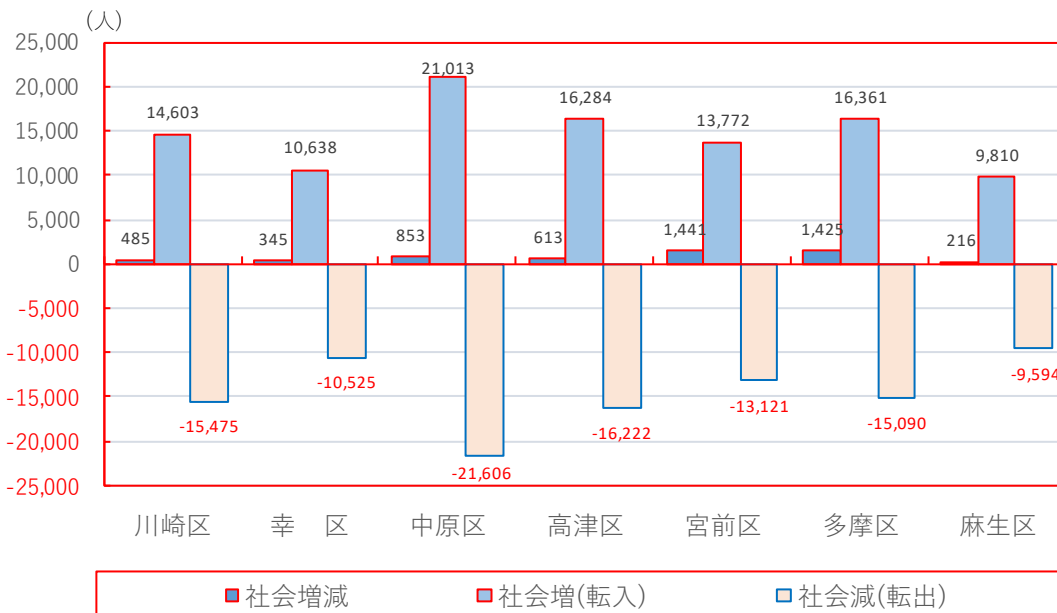
区別の人口動態の状況（令和3年1月～令和3年12月）



区別の自然動態の状況（令和3年1月～令和3年12月）



区別の社会動態の状況（令和3年1月～令和3年12月）



4 年齢(3区分)別人口の状況

麻生区における年齢(3区分)別人口の推移をみると、0～14歳の「年少人口」は、平成27年の23,718人から令和3年の22,611人まで平成30年の前年比0.27%増加以外は、徐々に減少しており、6年間で1,107人4.67%減少しています。構成比をみると、平成27年の13.51%から令和3年には12.49%と1.02%減少しており、ともに緩やかな減少傾向である。

15～64歳の「生産年齢人口」は、令和3年には114,189人と前年より227人増加しており、平成27年の112,624人からの6年間では1,565人増加となり、緩やかな増加傾向がみられる。しかし構成比は、64.16%から63.08%へと1.08%減少している。

65歳以上の「老年人口」は、平成27年の39,181人から令和3年には44,210人と5,029人、12.84%の増、構成比は22.32%から24.42%へと2.10%増加している。

さらに、75歳以上の「後期高齢者人口」をみると、平成27年の18,525人から毎年増加しており、令和3年には23,947人と5,422人、29.27%の増、構成比は10.55%から13.23%へと2.68%増加しており、高齢化とともに高年齢化が進み、「年少人口」と「後期高齢者人口」との差は平成27年の5,193人から令和元年には749人と大幅に縮小しており、令和2年には、「後期高齢者人口」が「年少人口」を上回り、令和3年も高齢者人口が1,336人上回っており、この数字からも高齢年齢化が進んでいることが分かる。

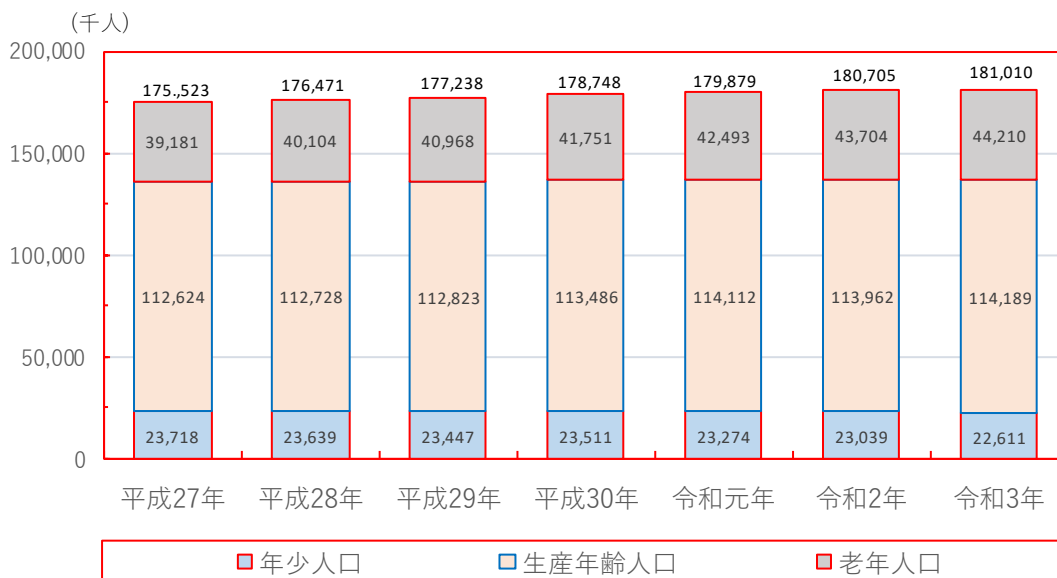
麻生区の年齢(3区分)別人口の推移(各年10月1日現在)

区 分	人口(人)					構成比(%)			
	総数	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口		年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口	
				65歳以上	うち75歳以上			65歳以上	うち75歳以上
平成27年	175,523	23,718	112,624	39,181	18,525	13.51%	64.16%	22.32%	10.55%
平成28年	176,471	23,639	112,728	40,104	19,562	13.40%	63.88%	22.73%	11.09%
平成29年	177,238	23,447	112,823	40,968	20,581	13.23%	63.66%	23.11%	11.61%
平成30年	178,748	23,511	113,486	41,751	21,506	13.15%	63.49%	23.36%	12.03%
令和元年	179,879	23,274	114,112	42,493	22,525	12.94%	63.44%	23.62%	12.52%
令和2年	180,705	23,039	113,962	43,704	23,505	12.75%	63.07%	24.19%	13.01%
令和3年	181,010	22,611	114,189	44,210	23,947	12.49%	63.08%	24.42%	13.23%

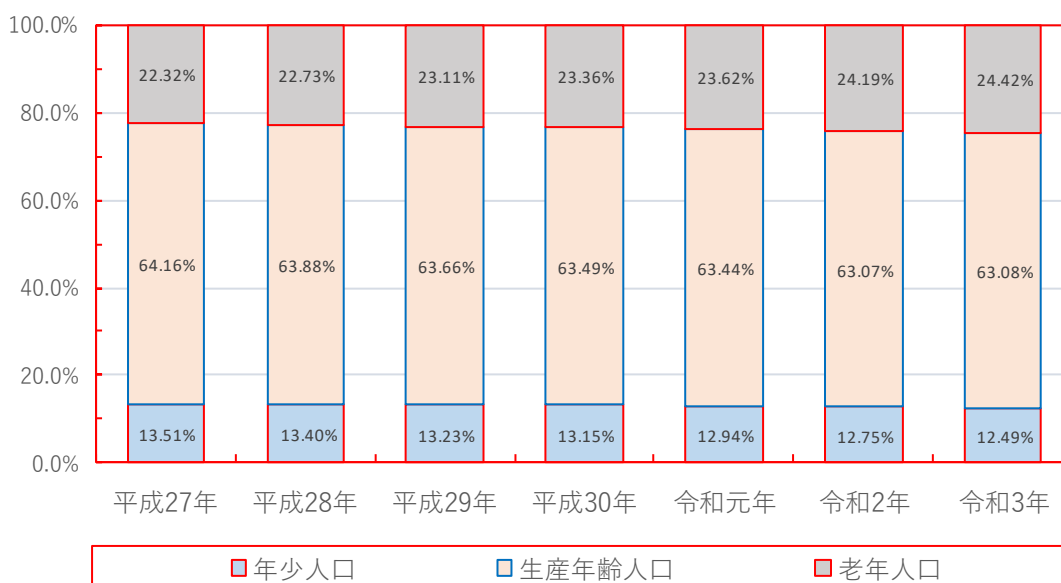
麻生区の年齢別人口の対前年増加数、人口増減率

区 分	対前年増加数(人)、人口増減率(%)									
	総数		年少人口 0～14歳		生産年齢人口 15～64歳		老年人口			
						65歳以上		うち75歳以上		
平成27年	2,059	1.18%	-148	-0.62%	979	0.88%	1,228	3.24%	703	3.94%
平成28年	948	0.54%	-79	-0.33%	104	0.09%	923	2.36%	1,037	5.60%
平成29年	767	0.43%	-192	-0.81%	95	0.08%	864	2.15%	1,019	5.21%
平成30年	1,510	0.85%	64	0.27%	663	0.59%	783	1.91%	925	4.49%
令和元年	1,131	0.63%	-237	-1.01%	626	0.55%	742	1.78%	1,019	4.74%
令和2年	826	0.46%	-235	-1.01%	-150	-0.13%	1,211	2.15%	980	4.35%
令和3年	305	0.17%	-428	-1.86%	227	0.20%	506	1.16%	442	1.88%

麻生区の年齢(3区分)別人口の推移 (各年10月1日現在)



麻生区の年齢(3区分)別構成比の推移 (各年10月1日現在)



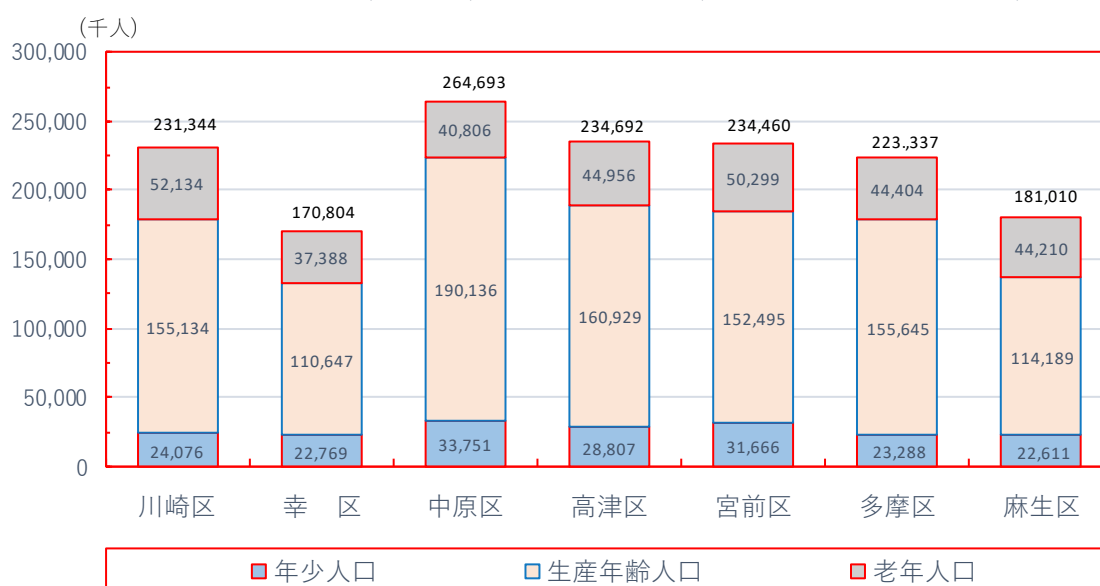
区別の年齢(3区分)別人口の状況 (令和3年10月1日現在)

区分	人口(人)					構成比(%)			
	総数	年少人口 0~14歳	生産年齢人口 15~64歳	老年人口		年少人口 0~14歳	生産年齢人口 15~64歳	老年人口	
				65歳以上	うち75歳以上			65歳以上	うち75歳以上
全市	1,540,340	186,968	1,039,175	314,197	162,252	12.14%	67.46%	20.40%	10.53%
川崎区	231,344	24,076	155,134	52,134	26,011	10.41%	67.06%	22.54%	11.24%
幸区	170,804	22,769	110,647	37,388	19,409	13.33%	64.78%	21.89%	11.36%
中原区	264,693	33,751	190,136	40,806	20,369	12.75%	71.83%	15.42%	7.70%
高津区	234,692	28,807	160,929	44,956	22,924	12.27%	68.57%	19.16%	9.77%
宮前区	234,460	31,666	152,495	50,299	26,363	13.51%	65.04%	21.45%	11.24%
多摩区	223,337	23,288	155,645	44,404	23,229	10.43%	69.69%	19.88%	10.40%
麻生区	181,010	22,611	114,189	44,210	23,947	12.49%	63.08%	24.42%	13.23%

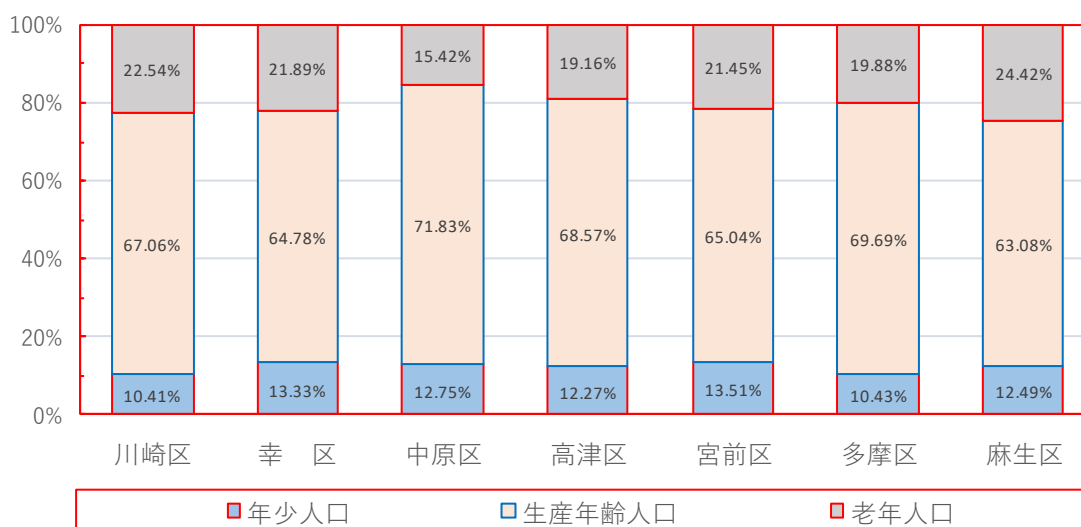
区別の年齢(3区分)別人口の対前年増加数、人口増減率(令和3年10月1日現在)

区分	対前年増加数(人)、人口増減率(%)									
	総数		年少人口 0~14歳		生産年齢人口 15~64歳		老年人口			
			65歳以上	うち75歳以上						
全市	2,078	0.14%	-2,610	-1.38%	2,006	0.19%	2,682	0.86%	1,983	1.24%
川崎区	-1,621	-0.70%	-742	-2.99%	-859	-0.55%	-20	-0.04%	-15	-0.06%
幸区	-295	-0.17%	-150	-0.65%	-322	-0.29%	177	0.48%	155	0.81%
中原区	1,010	0.38%	-330	-0.97%	883	0.47%	457	1.13%	179	0.89%
高津区	364	0.16%	-535	-1.82%	404	0.25%	495	1.11%	354	1.57%
宮前区	732	0.31%	-266	-0.83%	394	0.26%	604	1.22%	551	2.13%
多摩区	1,603	0.72%	-159	-0.68%	1,299	0.84%	463	1.05%	317	1.38%
麻生区	305	0.17%	-428	-1.86%	227	0.20%	506	1.16%	442	1.88%

区別の年齢(3区分)別人口の状況(令和3年10月1日現在)



区別の年齢(3区分)別構成比の状況 (令和3年10月1日現在)



市全体の年齢(3区分)別人口をみると、令和3年の総人口は 1,540,340人であり、そのうち0～14歳の「年少人口」は 186,968人(構成比 12.14%)、15～64歳の「生産年齢人口」は 1,039,175人(同 67.46%)、65歳以上の「老年人口」は 314,197人(同 20.40%)、75歳以上の「後期高齢者人口」は 162,252人(同 10.53%) になっている。

また、対前年比をみると、総人口は 2,078人、0.14%増、そのうち「年少人口」は 2,610人、1.38%減、「生産年齢人口」は 2,006人、0.19%増、「老年人口」は 2,682人、0.86%増と「年少人口」が減少しているものの、残る2区分で増加している。

区別に年齢(3区分)別人口の構成比をみると、「年少人口」で最も高いのは宮前区の 13.51%で、次いで幸区が 13.33%、中原区が 12.75%の順となっている。また、麻生区は 12.49%で4番目に高くなっている。

次に、「生産年齢人口」は、最も高いのは中原区の 71.83%で、次いで多摩区が 69.69%、高津区が 68.57%の順となっている。また、麻生区は 63.08%で最も低くなっている。

また、「老年人口」は、麻生区が 24.42%で最も高く、次いで川崎区が 22.54%、幸区が 21.89%の順となっている。さらに、「後期高齢者人口」でも、最も高いのは麻生区の 13.23%で、次いで幸区が 11.36%、川崎区と宮前区が 11.24%の順となっており、最も低い中原区(7.70%)と高津区(9.77%)を除く5区で構成比が 10%を上回っている。

区別に対前年比をみると、「年少人口」はすべての区で減少しており、最も減少したのは川崎区の 742人減で、次いで高津区が 535人減、麻生区が 428人減の順となっている。

次に、「生産年齢人口」は、川崎区、幸区で減少しており、他の5区は増加している。最も増加したのは多摩区の 1,299人増で、次いで中原区が 883人増、高津区が 404人増の順となっている。

また、「老年人口」で最も増加したのは宮前区の 604人増で、次いで麻生区が 506人増、高津区 495人増の順となっている。さらに、75歳以上の「後期高齢者人口」でも、最も増加したのは宮前区の 551人増で、次いで麻生区が 442人増、高津区が354人の順となっている。

5 出生数・出生率の状況

麻生区における出生数・出生率の推移をみると、平成26年は1,480人の出生数があったが、その後、増減を繰り返しながら微減傾向で推移している。また、出生率は平成26年の8.5%から平成29年には7%台に低下し、令和2年には5.6%と6年間で2.90ポイント減少している。

一方、死亡数は平成27年には161人増と増加し、令和元年に若干減少したものの、令和2年まで増加傾向にある。また、平成30年には死亡数1,381人に対し、出生数1,328人と死亡数が53人上回り、令和元年、2年とも引き続き、自然動態が減少している。

婚姻件数をみると、平成26年から平成28年まで減少が続いたあと、平成29年には766件となり前年比63件増と増加に転じたが、令和2年は707件で109件減と前年の件数を下回っている。

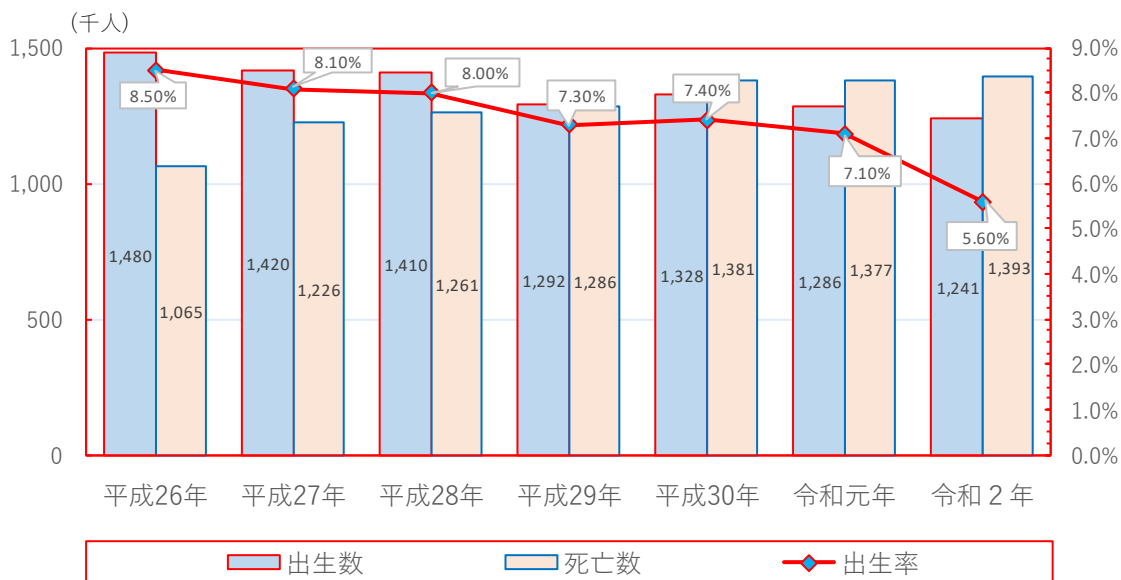
麻生区の出生数・出生率等の推移（各年1～12月）

区 分	婚姻件数	自然動態	出 生			出生率 (%)	死 亡		
			総数	男	女		総数	男	女
平成26年	785	415	1,480	769	711	8.50%	1,065	590	475
平成27年	747	194	1,420	706	714	8.10%	1,226	650	576
平成28年	703	149	1,410	723	687	8.00%	1,261	642	619
平成29年	766	6	1,292	648	644	7.30%	1,286	675	611
平成30年	784	-53	1,328	660	668	7.40%	1,381	743	638
令和元年	816	-91	1,286	698	588	7.10%	1,377	709	668
令和2年	707	-152	1,241	635	606	5.60%	1,393	718	675

※ 出生・死亡は日本人、婚姻はいずれかが日本人を対象としている。

※ 川崎市統計書「表Ⅲ-5 人口動態(自然増減・社会増減)」の出生・死亡の数値とは集計方法が異なるため一致しない。

麻生区の出生数・出生率等の推移（各年1～12月）



市全体の状況をみると、令和2年の出生数は 12,480人、出生率は8.1%だったのに対し、死亡数は 11,594人で、自然動態は 886人増となっており、いずれも男の人数が女を上回っている。

区別に令和2年の出生数・出生率等の状況をみると、出生数が最も多いのは中原区の 2,690人で、次いで高津区が 1,912人、多摩区が 1,823人の順となっており、麻生区は 1,241人で最も少なくなっている。

出生率をみると、最も高いのは中原区の 10.2%で、次いで幸区が 9.5%、高津区及び多摩区が 8.2%となっており、麻生区は 5.6%で最も低くなっている。

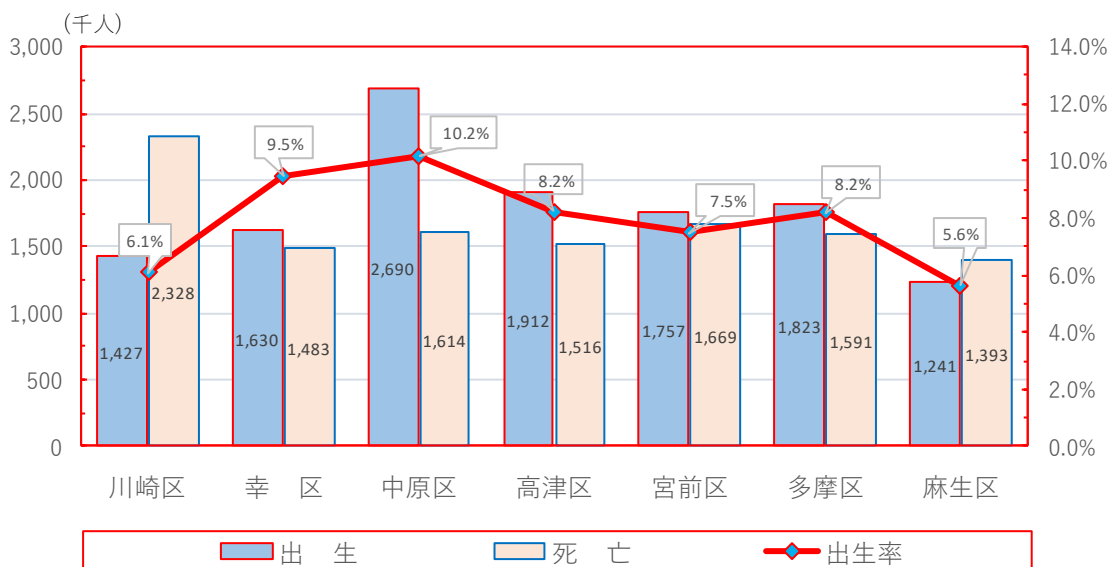
婚姻件数をみると、最も多いのは中原区の 2,050件で、次いで多摩区が 1,424件、高津区が 1,388件の順となっており、麻生区は 707件で最も少なくなっている。また、婚姻率をみると、最も高いのは中原区の 7.8%で、次いで多摩区が 6.4%、川崎区及び幸区が 5.5%の順となっており、麻生区は 3.2%で最も低くなっている。

区別の出生数・出生率等の状況（令和2年1～12月）

区分	婚姻件数	婚姻率※	自然動態	出生			出生率※	死亡		
				総数	男	女		総数	男	女
全市	8,761	5.7%	886	12,480	6,399	6,081	8.1%	11,594	6,412	5,182
川崎区	1,278	5.5%	-901	1,427	735	692	6.1%	2,328	1,395	933
幸区	943	5.5%	147	1,630	821	809	9.5%	1,483	815	668
中原区	2,050	7.8%	1,076	2,690	1,364	1,326	10.2%	1,614	833	781
高津区	1,388	5.9%	396	1,912	975	937	8.2%	1,516	847	669
宮前区	971	4.2%	88	1,757	918	839	7.5%	1,669	916	753
多摩区	1,424	6.4%	232	1,823	951	872	8.2%	1,591	888	703
麻生区	707	3.2%	-152	1,241	635	606	5.6%	1,393	718	675

※人口1000人につき

区別の出生数・出生率等の状況（令和2年1～12月）



6 麻生区の保育所

麻生区の認可保育所は33所あり、そのうち上麻生保育園、高石保育園、白山保育園の3園は公設公営の保育所となっている。

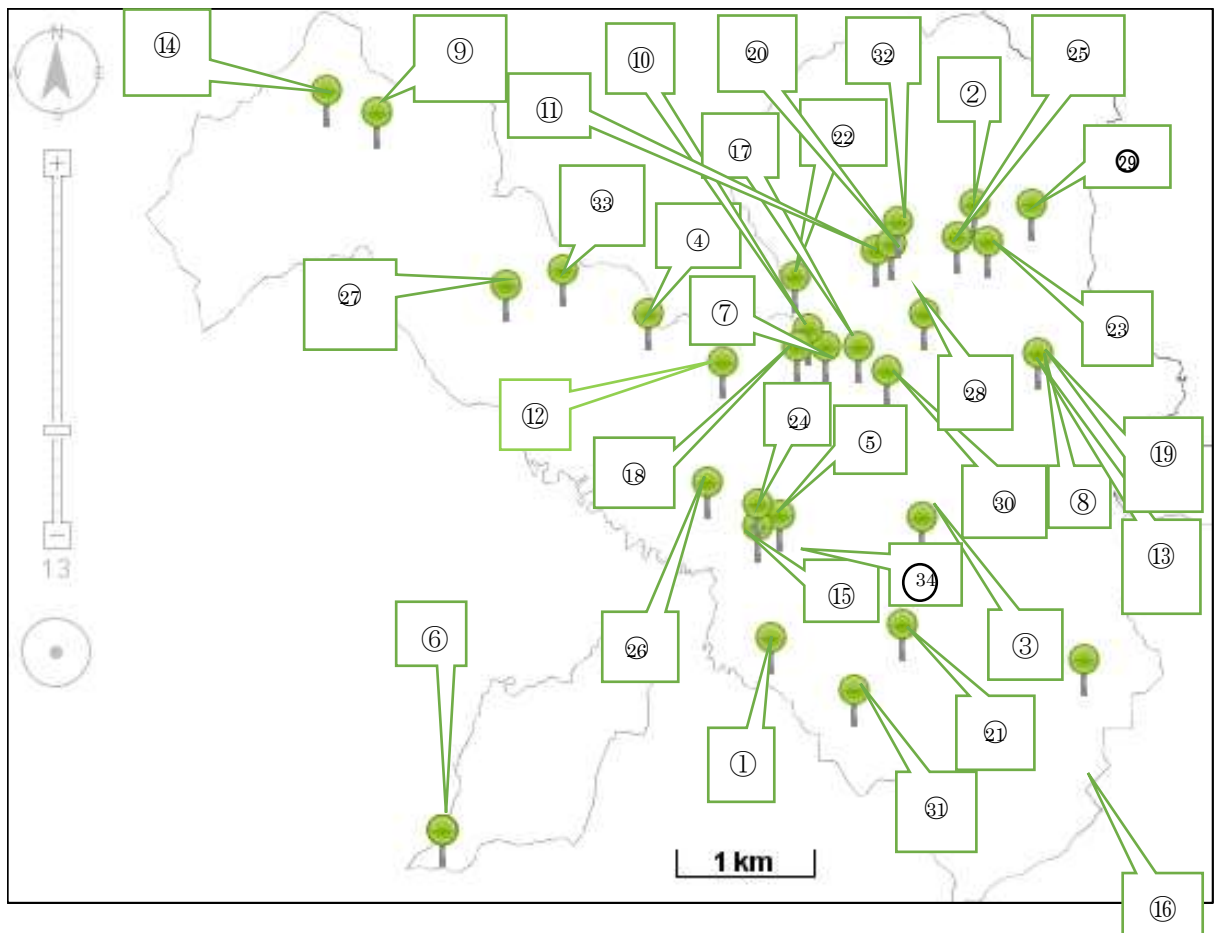
麻生区保育所の所在地をみると、麻生区内各駅（柿生駅、新百合ヶ丘駅、百合丘駅）の近くに保育所が集中していることが分かる。

麻生区の施設数及び定員

(単位：か所、人)

公設公営		民設民営		合計	
施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
3	300	31	2,250	33	2,510

麻生区保育所の所在地



麻生区の認可保育所一覧

麻生区の認可保育所	
保育所名所	住所
1 上麻生保育園	上麻生7丁目2-3
2 高石保育園	高石1丁目14-15
3 白山保育園	白山4丁目2-1
4 社会福祉法人横浜悠久会白鳥保育園	白鳥1丁目17-2
5 柿生保育園	上麻生5丁目23-1
6 すぎのこ保育園	岡上1丁目15-6
7 あさのみ保育園	上麻生3丁目22-14
8 保育園キディ百合丘.川崎	百合ヶ丘1丁目16サンラフレ百合ヶ丘7-201
9 はるひ野保育園	はるひ野2丁目7-1
10 木下の保育園新百合ヶ丘	古沢43コザワビル2階
11 小学館アカデミー新ゆり山手保育園	万福寺4丁目19プライムアリーナ新百合ヶ丘1.2階
12 五月台ルミナス保育園	五力田3丁目18-3
13 至誠館ゆりがおか保育園	百合ヶ丘1丁目18-4
14 くろかわのぞみ保育園	はるひ野4丁目7-1
15 アクス柿生保育園	上麻生5丁目40-4
16 にじのそら虹ヶ丘保育園	虹ヶ丘2丁目2-20
17 クレアナーサリー新百合ヶ丘	上麻生3丁目1-2
18 天才キッズクラブ楽学館古沢園	古沢8丁目1
19 天才キッズクラブ楽学館百合ヶ丘園	百合ヶ丘1丁目16-16
20 天才キッズクラブ楽学館万福寺園	万福寺4丁目9-1サンヒル.コザワ1F
21 王禅寺しらゆり保育園	王禅寺東5丁目3-53
22 アスク新百合ヶ丘保育園	古沢197-6
23 百合ヶ丘ルミナス保育園	百合ヶ丘1丁目19-2
24 柿生ルミナス保育園	片平2丁目30-1
25 あいあい保育園百合ヶ丘園	万福寺4丁目1-3
26 くりの実保育園	片平4丁目1-30
27 アイン栗平保育園	栗木台1丁目1-16
28 天才キッズクラブ楽学館保育園	上麻生1丁目3-9新百合ヶ丘KIビル2階
29 ポピンズナーサリースクール百合丘	百合ヶ丘1丁目24-9
30 つくしんぼ保育園	上麻生3丁目3-11
31 はじめの一步保育園	上麻生7丁目41-5
32 麻生ゆりのき保育園	千代ヶ丘1丁目17-2
33 ぶれすと白鳥ほいくえん	白鳥3丁目5-1
34 かくれんぼ保育園	上麻生5丁目45-12 GRAN HLLS 1F

7 児童虐待相談・通告の状況

麻生区の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成28年は 282件で前年比 93件(49.20%)の増加となり、以降は増加に転じ、平成29年度は 318件で 36件(12.77%)増、平成30年度は 439件で 121件(38.05%)増、令和元年度は 515件で 76件(17.31%)増、令和2年度は 705件と 190件(36.89%)増となり、増加傾向が継続していたが、令和3年度は 674件となり、令和2年度から 31件減少している。

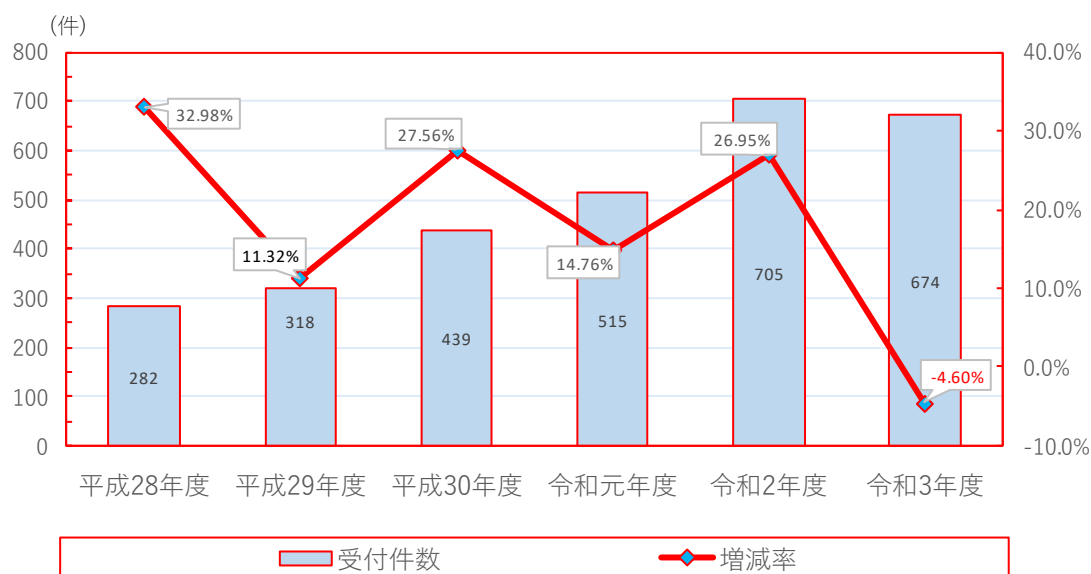
市全体の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成28年は 2,875件で前年比 341件(13.46%)増加し、平成29年度は 3,263件で 388件(13.50%)増、平成30年度は 4,134件で 871件(26.69%)増、令和元年度は 4,506件で 372件(9.00%)増、令和2年度は 5,557件と 1,051件(23.32%)増、令和3年度は 5,832件と 275件(4.95%)増となり、増加傾向が継続しており、5年間で 2.03倍に増加している。

区別の児童虐待相談・通告の受付件数（区役所・児童相談所の合計）

区分	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	その他※
平成28年度	2,875	781	382	429	383	323	288	282	7
平成29年度	3,263	758	324	431	518	578	317	318	19
平成30年度	4,134	835	491	560	600	627	541	439	41
令和元年度	4,506	1,031	525	524	670	700	513	515	28
令和2年度	5,557	1,179	619	706	703	940	637	705	68
令和3年度	5,832	1,243	566	732	902	1,001	653	674	61
構成比(%)	100.00%	21.31%	9.71%	12.55%	15.47%	17.16%	11.20%	11.56%	1.05%

※ 市内3か所の児童相談所と7区役所において年度内に受付けた児童虐待相談・通告件数の集計結果である。
 ※ その他は初期調査により、管轄区外に居住していることが確認された件数である。

麻生区の児童虐待相談・通告の受付件数及び増減率の推移



区別の児童虐待相談・通告の受付件数をみると、平成28年度以降、他区と比べて川崎区が多く、令和元年度には1,000件を上回るなど、増加傾向が続いている。

各年度の受付件数をみると、令和2年度で最も多いのは川崎区の1,179件で、次いで宮前区が940件、中原区が706件の順で、最も少ないのは幸区の619件で、次いで多摩区が637件、高津区が703件の順となっている。また、令和3年度で最も多いのは川崎区の1,243件で、次いで宮前区が1,001件、高津区の902件の順で、最も少ないのは幸区の566件で、次いで多摩区が653件、麻生区が674件の順となっている。

区別の児童虐待相談・通告件数及び構成比の状況（令和3年度）



【参考】

児童虐待の虐待種別件数の推移

区分	総数	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待	
市全体	平成28年度	2,875	616	784	28	1,447
	平成29年度	3,263	614	966	17	1,666
	平成30年度	4,134	787	1,071	32	2,244
	令和元年度	4,506	877	1,103	23	2,503
	令和2年度	5,557	1,055	1,584	40	2,878
	令和3年度	5,832	1,066	1,719	36	3,011
区役所	平成28年度	741	143	382	6	210
	平成29年度	895	165	452	5	273
	平成30年度	1,071	214	504	8	345
	令和元年度	1,138	185	588	3	362
	令和2年度	1,824	277	1,013	10	524
	令和3年度	1,802	267	1,100	2	433
児童相談所	平成28年度	2,134	473	402	22	1,237
	平成29年度	2,368	449	514	12	1,393
	平成30年度	3,063	573	567	24	1,899
	令和元年度	3,368	692	515	20	2,141
	令和2年度	3,733	778	571	30	2,354
	令和3年度	4,030	799	619	34	2,578

8 障害者の状況

麻生区の障害者数の推移をみると、身体障害者(身体障害者手帳所持者)、知的障害者(療育手帳所持者)、精神障害者(精神障害者保健福祉手帳所持者)のいずれも増加傾向が継続しており、平成27年の 6,000人に対し、令和3年は 7,050人となっており 6年間で 1,050人、17.50%増加している。

障害種別ごとにみると、身体障害者は、平成27年の 3,966人に対し、令和3年は 4,169人で、6年間で 203人、5.12%増加しており、内訳をみると、18歳未満は、平成27年の 128人に対し、令和3年には 121人となり 7名の減少であるが、18歳以上は、平成27年の 3,838人に対し、令和3年には 4,048人となり 210人、5.47%増加している。

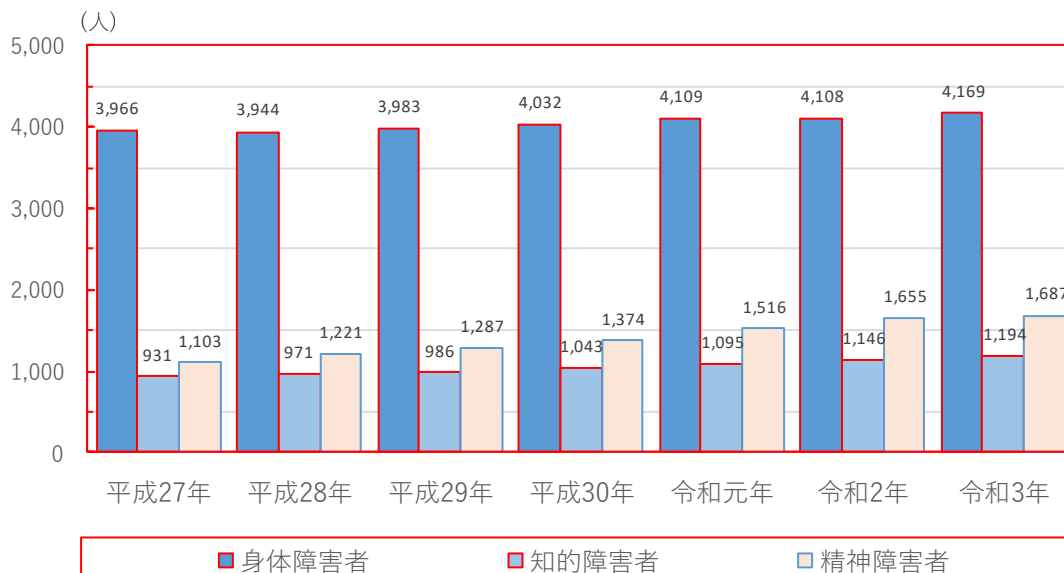
知的障害者は、平成27年の 931人に対し、令和3年には 1,194人となり 6年間で 263人、28.25%増加しており、内訳をみると、18歳未満は、平成27年の 348人に対し、令和3年には 370人となり 22人、6.32%増加し、18歳以上は、平成27年の 583人に対し、令和3年には 824人となり 241人、41.34%増と大幅に増加している。

精神障害者は、平成27年の 1,103人に対し、令和3年には 1,687人となり 6年間で 584人、52.95%増と3障害のうち最も増加幅が大きくなっている。

麻生区の障害者数の推移（各年 3月31日現在）

区 分	総 数	身体障害者			知的障害者			精神障害者
		計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	
平成27年	6,000	3,966	128	3,838	931	348	583	1,103
平成28年	6,136	3,944	125	3,819	971	342	629	1,221
平成29年	6,256	3,983	127	3,856	986	354	632	1,287
平成30年	6,449	4,032	119	3,913	1,043	362	681	1,374
令和元年	6,720	4,109	125	3,984	1,095	367	728	1,516
令和2年	6,909	4,108	127	3,981	1,146	379	767	1,655
令和3年	7,050	4,169	121	4,048	1,194	370	824	1,687

麻生区の障害者数の推移（各年 3月31日現在）



市全体の障害者数をみると、令和3年は 63,305人で、前年比 807人、1.29%増加している。

内訳をみると、身体障害者は 37,780人で、前年比 201人、0.53%増、知的障害者は 11,420人で、同 443人、4.04%増、精神障害者は 14,105人で、同 1,163人、1.17%増となっている。

区別に令和3年と令和2年の障害者数を比べると、川崎区は 11,873人で前年比 289人、2.49%増、宮前区は9,611人で 196人、2.08%増と、共に増加率が高く、次いで麻生区が 7,050人で 141人、2.04%増となっている。また、構成比をみると、川崎区の 18.76%が最も多く、次いで宮前区が 15.18%、高津区が 15.05%の順となっており、麻生区は 11.14%と最も少なくなっている。

障害種別に比べると、身体障害者数は宮前区が 5,581人で、前年比 91人、1.66%増と最も増加率が高く、次いで麻生区が 4,169人で 61人、1.48%増、多摩区が 5,101人で 70人、1.39%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 19.69%が最も多く、次いで宮前区の 14.77%、高津区の 14.65%の順となっており、麻生区は 11.03%で最も少なくなっている。

知的障害者数をみると、川崎区が 2,079人で、前年比 115人、5.86%増と最も増加率が高く、次いで宮前区が 1,846人で 76人、4.29%増、麻生区が 1,194人で 48人、4.19%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 18.20%が最も多く、次いで高津区の 16.20%、宮前区の 16.16%の順となっており、麻生区は 10.46%で最も少なくなっている。

精神障害者数をみると、川崎区が 2,357人で、前年比 87人、4.29%増と最も増加率が高く、次いで麻生区が 1,687人で 32人 1.93%増、宮前区が 2,184人で 29人、1.35%増の順となっている。また、構成比をみると、川崎区の 16.71%が最も多く、次いで多摩区の 15.88%、宮前区の 15.48%の順となっており、麻生区は 11.96%で、幸区の 11.58%に次いで2番目に少なくなっている。

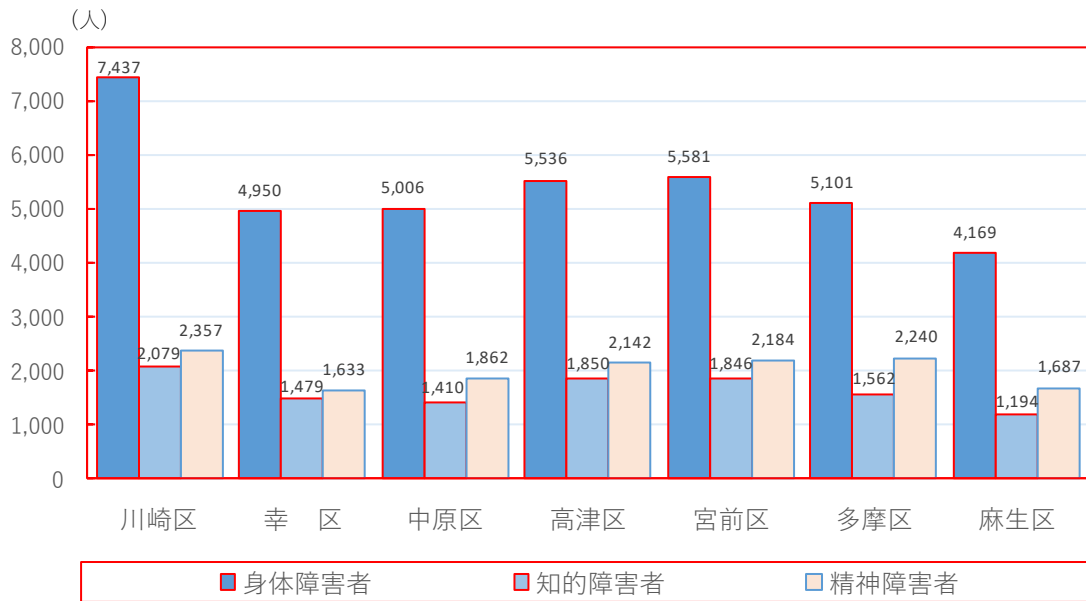
令和3年と令和2年との障害者数の比較

区分	総数	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	
2	計	62,498	11,584	8,063	8,265	9,503	9,415	8,759	6,909
	身体	37,579	7,360	5,024	5,029	5,537	5,490	5,031	4,108
	知的	10,977	1,964	1,426	1,363	1,802	1,770	1,506	1,146
	精神	13,942	2,260	1,613	1,873	2,164	2,155	2,222	1,655
3	計	63,305	11,873	8,062	8,278	9,528	9,611	8,903	7,050
	増減率%	1.29%	2.49%	-0.01%	0.16%	0.26%	2.08%	1.64%	2.04%
	構成比%	100.00%	18.76%	12.74%	13.08%	15.05%	15.18%	14.06%	11.14%
	身体	37,780	7,437	4,950	5,006	5,536	5,581	5,101	4,169
	増減率%	0.53%	1.05%	-1.47%	-0.46%	-0.02%	1.66%	1.39%	1.48%
	構成比%	100.00%	19.69%	13.10%	13.25%	14.65%	14.77%	13.50%	11.03%
	知的	11,420	2,079	1,479	1,410	1,850	1,846	1,562	1,194
	増減率%	4.04%	5.86%	3.72%	3.45%	2.66%	4.29%	3.72%	4.19%
	構成比%	100.00%	18.20%	12.95%	12.35%	16.20%	16.16%	13.68%	10.46%
	精神	14,105	2,357	1,633	1,862	2,142	2,184	2,240	1,687
増減率%	1.17%	4.29%	1.24%	-0.59%	-1.02%	1.35%	0.81%	1.93%	
構成比%	100.00%	16.71%	11.58%	13.20%	15.19%	15.48%	15.88%	11.96%	

区別の障害者手帳所持者数の状況（令和3年3月31日現在）

区 分	総 数	身体障害者			知的障害者			精神障害者
		計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	
全 市	63,305	37,780	907	36,873	11,420	3,753	7,667	14,105
川崎区	11,873	7,437	131	7,306	2,079	701	1,378	2,357
幸 区	8,062	4,950	99	4,851	1,479	547	932	1,633
中原区	8,278	5,006	150	4,856	1,410	518	892	1,862
高津区	9,528	5,536	137	5,399	1,850	580	1,270	2,142
宮前区	9,611	5,581	169	5,412	1,846	591	1,255	2,184
多摩区	8,903	5,101	100	5,001	1,562	446	1,116	2,240
麻生区	7,050	4,169	121	4,048	1,194	370	824	1,687

区別の障害者数の状況（令和3年3月31日現在）



9 介護保険の利用状況

麻生区における介護保険の利用状況をみると、要介護認定者は、平成27年の 6,188人以降おむね200~400人の増加を続け、令和3年は 7,913人と、6年間で 1,725人、27.88%増加している。

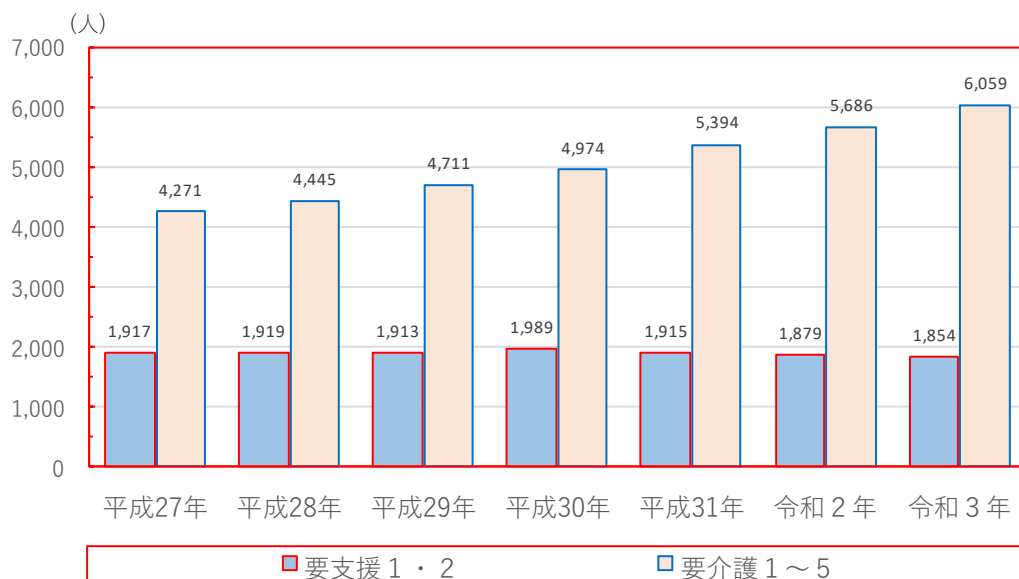
認定区分別にみると、要支援1及び2は、平成27年が 1,917人で、令和3年には 1,854人となり 6年間で 63人、3.29%の減少に対し、要介護1~5は、平成27年が 4,271人で、令和3年には 6,059人となり 1,778人、41.63%増加している。

介護度別に6年間の増減率をみると、最も高いのは要介護2で 482人、53.73%増、次いで要介護4の 319人、50.39%増、要介護1の 649人、46.93%増の順となっており、要支援1、2は、それぞれ減少となっている。また、令和3年の構成比をみると、最も高いのは要介護1の 2,032人で(構成比 25.68%)、次いで要介護2が 1,379人で(同 17.43%)、要支援1が 988人で(同 12.49%)の順となっている。

麻生区の要支援・要介護認定者数の推移（各年3月31日現在）

区分	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成27年	6,188	1,044	873	1,383	897	701	633	657
平成28年	6,364	977	942	1,399	988	754	703	601
平成29年	6,624	917	996	1,408	1,131	811	764	597
平成30年	6,963	925	1,064	1,472	1,209	918	773	602
平成31年	7,309	931	984	1,680	1,334	913	822	645
令和2年	7,565	954	925	1,793	1,377	941	905	670
令和3年	7,913	988	866	2,032	1,379	974	952	722

麻生区の要支援・要介護認定者数の推移（各年3月31日現在）



市全体の要支援・要介護認定者数は、令和3年3月31日現在 58,808人で、要介護1が 13,122人(構成比 22.31%)で最も多く、次いで要介護2の 10,099人(同 17.17%)、要支援1の 7,853人(同 13.35%)の順となっており、要介護1と2で全体の 39.49%を占めている。

区別に認定者数をみると、最も多いのは川崎区で 11,129人(構成比 18.92%)、次いで宮前区の 8,735人(同 14.85%)、高津区の 8,409人(同 14.30%)の順となっており、麻生区は 7,748人(同 13.18%)で5番目に多くなっている。

認定区分別にみると、要支援(1・2)が最も多いのは川崎区の 2,643人(構成比 23.75%)で、次いで多摩区の 2,374人(同 29.51%)、高津区の 2,275人(同 27.05%)の順となっており、麻生区は 1,819人(同 23.48%)となり、7区の中で1番少なくなっている。

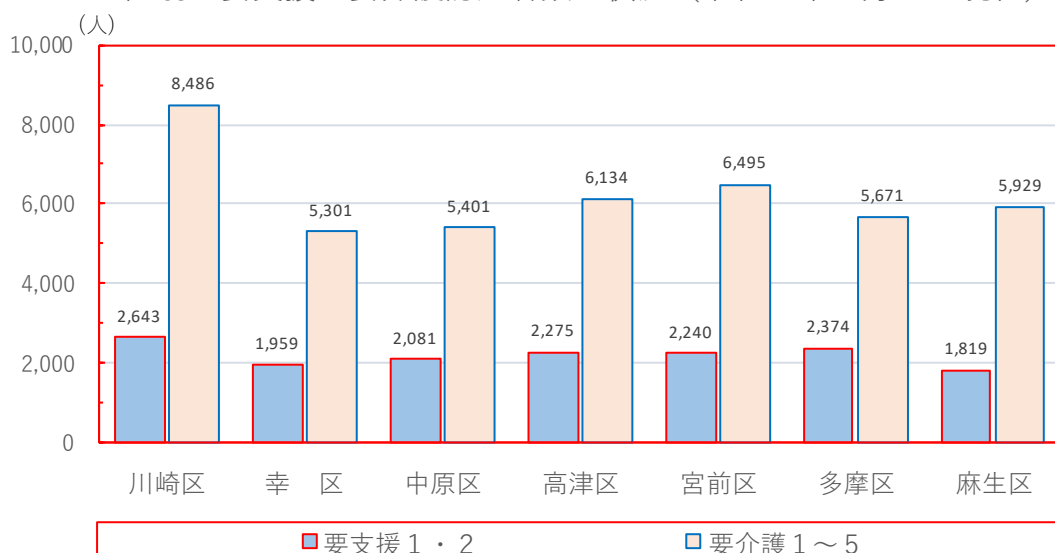
また、要介護(1～5)が最も多いのは川崎区の 8,486人(構成比 19.55%)で、次いで宮前区の 6,495人(同 14.96%)、高津区の 6,134人(同 14.13%)、麻生区の 5,929人(同 13.66%)の順になっています。

また、介護度別に認定者数をみると、全区とも要介護1が最も多く、次いで要介護2の順となっている。

区別の要支援・要介護認定者数（令和3年3月31日現在）

区分	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全市	58,808	7,853	7,538	13,122	10,099	7,669	7,338	5,189
川崎区	11,129	1,373	1,270	2,480	1,975	1,523	1,445	1,063
幸区	7,260	1,137	822	1,699	1,133	882	934	653
中原区	7,482	981	1,100	1,416	1,261	959	1,011	754
高津区	8,409	1,181	1,094	1,885	1,515	1,125	941	668
宮前区	8,735	946	1,294	1,811	1,683	1,219	1,064	718
多摩区	8,045	1,263	1,111	1,829	1,185	1,010	1,018	629
麻生区	7,748	972	847	2,002	1,347	951	925	704

区別の要支援・要介護認定者数の状況（令和3年3月31日現在）



10 ひとり暮らし高齢者の状況

麻生区における高齢単身者数の推移をみると、平成17年は 3,316人で、令和2年には 7,586人へと15年間で 4,270人、2.3倍と増加しており、高齢者人口に占める割合も平成17年の 13.3%から令和2年には 17.8%へと 4.5ポイント増加している。

市全体の高齢単身者数は、平成17年は 32,877人で、令和2年には 66,075人へと15年間で 33,198人増加しており、高齢者人口に占める割合も平成17年の 16.9%から令和2年には21.9%と5ポイント増加している。

区別に高齢単身者数をみると、平成17年の時点で最も多いのは川崎区の 7,685人で、次いで中原区の 5,019人、幸区の 4,674人の順となっており、最も少ないのは麻生区の 3,316人となっている。

また、令和2年の時点で高齢単身者が最も多いのは川崎区の 13,385人で、平成17年比 5,700人増、次いで宮前区の 9,388人で同 5,715人増、中原区の 9,266人で同 4,247人増の順となっており、最も少ないのは麻生区の 7,586人で同 4,270人増、次いで幸区の 8,406人で同 3,732人増の順となっている。

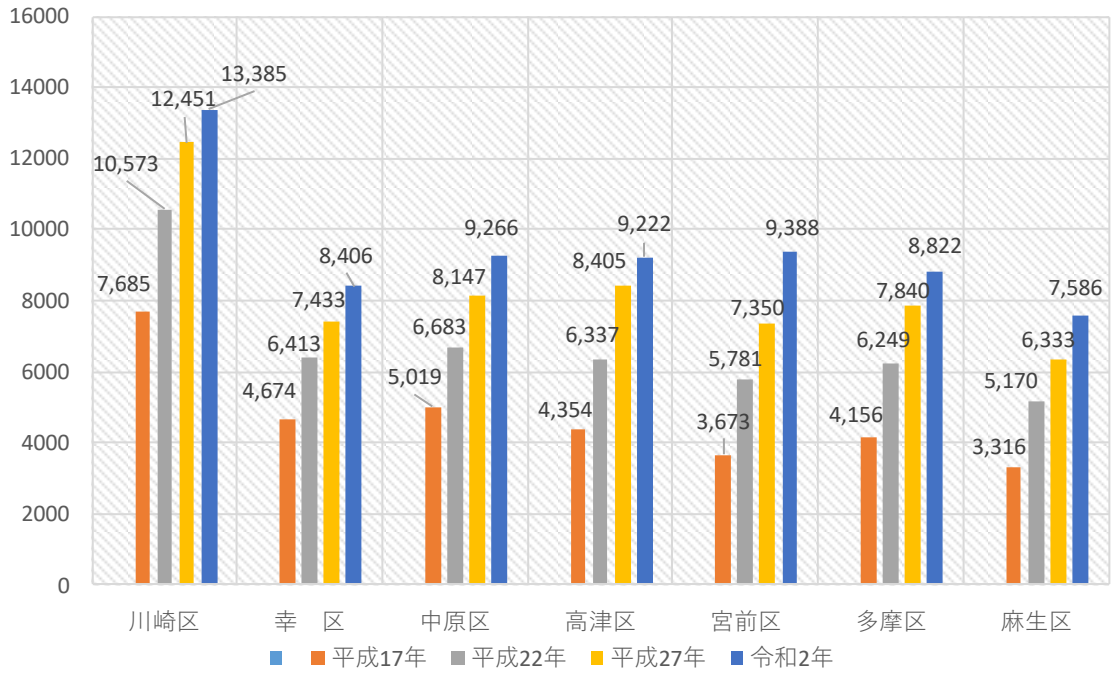
区別の高齢者人口に占める高齢単身者の推移

区 分	平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数	高齢者数	単身者数
全 市	194,176	32,877	237,298	47,206	279,482	57,959	301,151	66,075
川崎区	37,323	7,685	43,138	10,573	48,348	12,451	49,709	13,385
幸 区	25,108	4,674	29,601	6,413	34,886	7,433	36,643	8,406
中原区	27,662	5,019	31,946	6,683	36,871	8,147	39,332	9,266
高津区	25,564	4,354	32,224	6,337	39,163	8,405	43,090	9,222
宮前区	26,551	3,673	34,873	5,781	41,817	7,350	47,043	9,388
多摩区	27,078	4,156	33,520	6,249	39,538	7,840	42,661	8,822
麻生区	24,890	3,316	31,996	5,170	38,859	6,333	42,673	7,586

(高齢単身者の割合の推移)

区 分	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
全 市	16.9%	19.9%	20.7%	21.9%
川崎区	20.6%	24.5%	25.8%	26.9%
幸 区	18.6%	21.7%	21.3%	22.9%
中原区	18.1%	20.9%	22.1%	23.6%
高津区	17.0%	19.7%	21.5%	21.4%
宮前区	13.8%	16.6%	17.6%	20.0%
多摩区	15.3%	18.6%	19.8%	20.7%
麻生区	13.3%	16.2%	16.3%	17.8%

区別の高齢単身者の推移（各年 10 月 1 日現在）



区別の年齢（2区分）別高齢単身者の推移

区分	平成22年			平成27年			令和2年		
	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上	65歳以上	65歳以上 74歳以下	75歳以上
全市	47,206	24,357	22,849	57,959	28,867	29,092	66,075	30,255	35,820
川崎区	10,573	5,791	4,782	12,451	6,616	5,835	13,385	6,617	6,768
幸区	6,413	3,326	3,087	7,433	3,628	3,805	8,406	3,751	4,655
中原区	6,683	3,341	3,342	8,147	4,110	4,037	9,266	4,438	4,828
高津区	6,337	3,233	3,104	8,405	4,239	4,166	9,222	4,369	4,853
宮前区	5,781	3,093	2,688	7,350	1,461	3,673	9,388	4,141	5,247
多摩区	6,249	3,240	3,009	7,840	1,994	4,037	8,822	3,970	4,852
麻生区	5,170	2,333	2,837	6,333	2,794	3,539	7,586	2,969	4,617

(75歳以上男性単身者の割合の推移)

区分	平成22年	平成27年	令和2年
全市	48.4%	50.2%	54.2%
川崎区	34.3%	34.3%	50.6%
幸区	56.3%	60.0%	55.4%
中原区	45.2%	46.9%	50.6%
高津区	30.3%	31.0%	50.5%
宮前区	57.9%	62.1%	72.1%
多摩区	48.1%	51.2%	55.4%
麻生区	34.1%	36.3%	60.9%

1 1 高齢夫婦世帯の状況

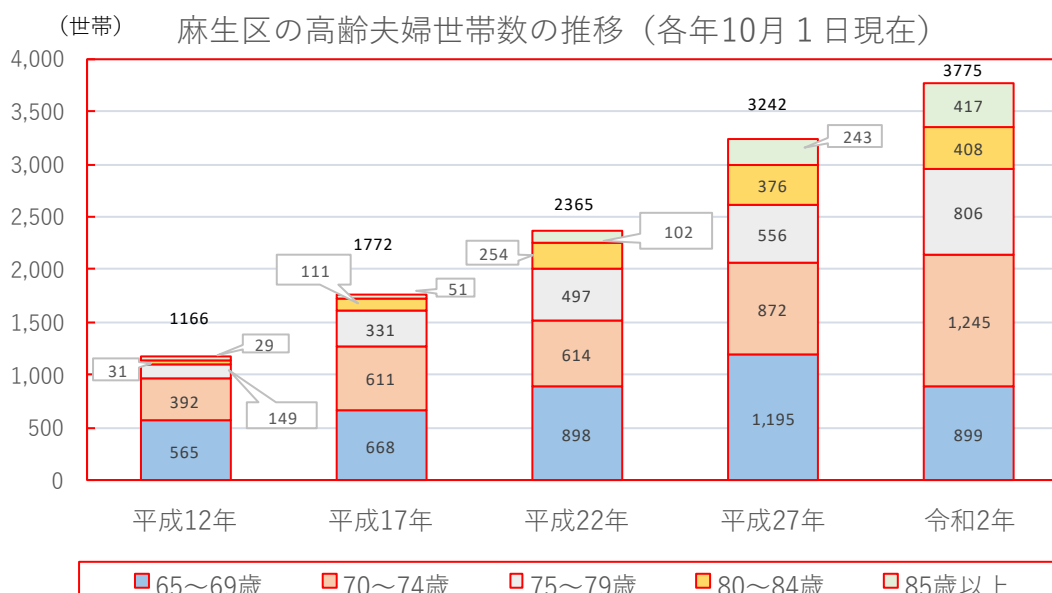
麻生区における高齢夫婦世帯数の推移をみると、平成12年は 3,124世帯で、平成17年には 4,531世帯と 1,407世帯、45.04%増、平成22年には 5,832世帯と 1,301世帯、28.71%増、平成27年には 7,400世帯と 1,568世帯、26.89%増、令和2年には 9,522世帯と 2,122世帯、28.68%増となっており、20年間で 6,398世帯増加し、3.05倍となっている。

また、高齢夫婦世帯のうち夫婦の年齢階級が同じ世帯数の推移をみると、65～69歳は平成12年で 565世帯、20年後の令和2年には 899世帯となり 334世帯、1.59倍に増加、70～74歳は平成12年で 392世帯、令和2年には 1,245世帯となり 853世帯、3.18倍に増加、75～79歳は平成12年で149世帯、令和2年には 806世帯となり 657世帯、5.41倍に増加、80～84歳は平成12年で 31世帯、令和2年には408世帯となり 377世帯、13.16倍に増加、85歳以上は平成12年で 29世帯、令和2年には 417世帯となり 388世帯、14.38倍に増加しており、75歳以上の後期高齢者夫婦世帯が著しく増加している。

麻生区における高齢夫婦の年齢(5階級)別の世帯数をみると、令和2年では 9,522世帯のうち夫の年齢階級で最も多いのは70～74歳の 2,664世帯で、全体の27.98%を占めており、次いで75～79歳の 2,276世帯、65～69歳の 1,949世帯の順となっている。また、妻の年齢階級で最も多いのは70～74歳の 2,742世帯で、全体の28.8%を占めており、次いで65～69歳の 2,122世帯、75～79歳の 1,962世帯の順となっている。

麻生区の高齢夫婦世帯数の推移（各年10月1日現在）

区分	総数	うち夫婦の年齢階級が同じ世帯				
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
平成12年	3,124	565	392	149	31	29
平成17年	4,531	668	611	331	111	51
平成22年	5,832	898	614	497	254	102
平成27年	7,400	1,195	872	556	376	243
令和2年	9,522	899	1,245	806	408	417



麻生区の高齢夫婦世帯の状況（令和2年10月1日現在）

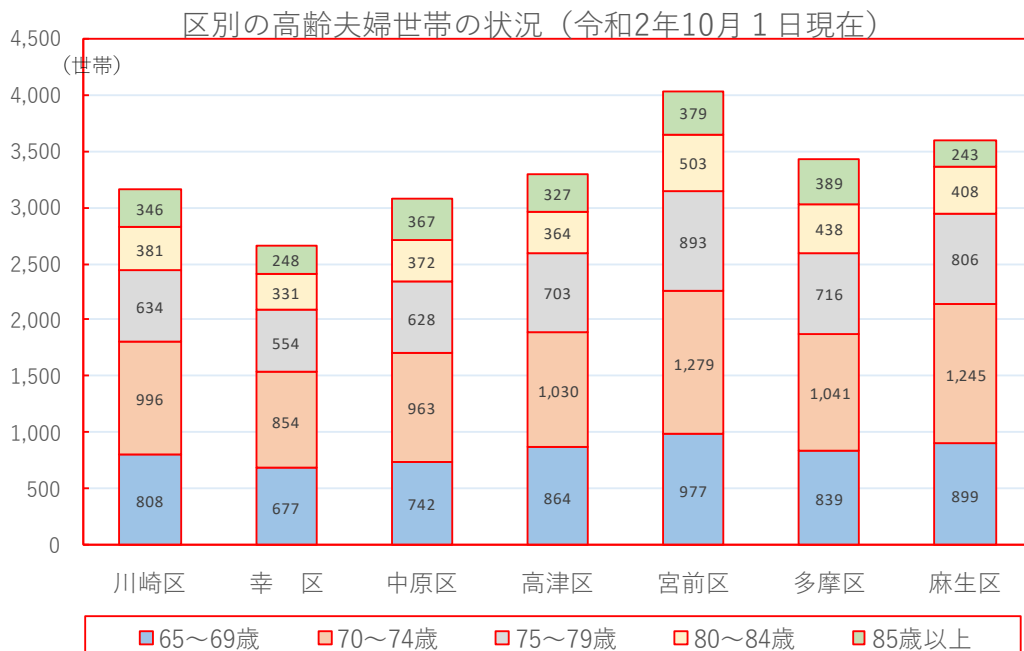
区 分 (5歳階級)	うち夫婦の年齢階級が同じ世帯					
	総 数	妻が65～69歳	妻が70～74歳	妻が75～79歳	妻が80～84歳	妻が85歳以上
総 数	9,522	2,122	2,742	1,962	1,003	477
夫が65～69歳	1,949	899	122	23	3	-
70～74歳	2,664	1,026	1,245	114	10	3
75～79歳	2,276	175	1,176	806	71	11
80～84歳	1,540	17	188	871	408	46
85歳以上	1,093	5	11	148	511	417

区別に高齢夫婦の世帯数をみると、最も多いのは宮前区の 10,107世帯で、次いで麻生区の 9,522世帯、多摩区の 8,473世帯の順となっており、北部3区で全体の 48.51%を占めている。

また、夫婦の年齢階級が同じ世帯をみると、65～69歳と70～74歳の2階級では宮前区が最も多く、次いで麻生区の順、75～79歳も宮前区が最も多く、次いで麻生区の順、80～84歳は宮前区、次いで多摩区の順、85歳以上は麻生区が最も多く、次いで多摩区の順となっている。

区別の高齢夫婦世帯の状況（令和2年10月1日現在）

区 分	総 数	うち夫婦の年齢階級が同じ世帯				
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
全 市	57,929	5,806	7,408	4,934	2,797	2,473
川崎区	7,911	808	996	634	381	346
幸 区	6,447	677	854	554	331	248
中原区	7,383	742	963	628	372	367
高津区	8,086	864	1,030	703	364	327
宮前区	10,107	977	1,279	893	503	379
多摩区	8,473	839	1,041	716	438	389
麻生区	9,522	899	1,245	806	408	417



1 2 老人クラブの状況

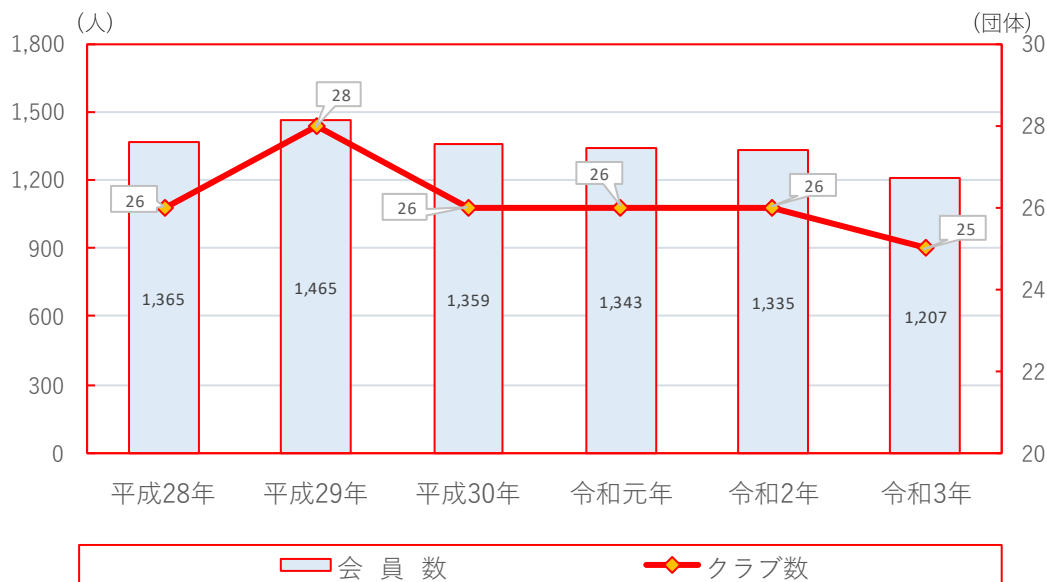
麻生区における老人クラブの会員数をみると、平成28年の 1,365人から令和3年には 1,207人へと、5年間で158人、11.58%減少しており、減少傾向が続いている。また、男女別の会員数をみると、男性は平成28年に 497人だったのに対して、令和3年には 397人となり 100人減少しており、女性は平成28年に 868人だったのに対して、令和3年には 810人となり 58人の減少となっている。

クラブ数は、平成29年に2団体の増加があったが、令和3年は25団体へと減少しており、1クラブ平均会員数も平成28年の52.50人から令和3年には48.28人へと徐々に減少している。

麻生区の老人クラブの推移（各年4月1日現在）

区 分	クラブ数	会 員 数			1クラブ 平均会員数
		総 数	男	女	
平成28年	26	1,365	497	868	52.50
平成29年	28	1,465	526	939	52.32
平成30年	26	1,359	474	885	52.27
令和元年	26	1,343	463	880	51.65
令和2年	26	1,335	457	878	51.35
令和3年	25	1,207	397	810	48.28

麻生区の老人クラブの推移（各年4月1日現在）



市全体の老人クラブの会員数をみると、令和3年4月1日現在、クラブ数が 437団体、会員数は 20,458人（うち男性 7,092人、女性13,366人）であり、1クラブ平均会員数は 46.81人となっている。

区別にクラブ数をみると、最も多いのは川崎区で 159団体、次いで幸区が 70団体、多摩区が 59団体の順となっており、麻生区は 25団体で最も少なくなっている。

老人クラブの会員数をみると、最も多いのは川崎区の 6,513人、次いで幸区が 3,554人、多摩区が 3,105人の順となっており、麻生区は 1,207人で最も少なくなっている。また、男女別の会員数をみると、会員数が最も多い川崎区では男性が 2,134人で、次いで幸区が1,243人、多摩区が1,115人となっており、麻生区は397人で最も少なくなっている。

また、1クラブあたりの平均会員数をみると、最も多いのは宮前区の 58.75人で、次いで多摩区が 52.63人、幸区が 50.77人の順となっており、麻生区は 48.28人で4番目となっている。

区別の老人クラブの状況（令和3年4月1日現在）

区 分	クラブ数	会 員 数			1クラブ 平均会員数
		総 数	男	女	
全 市	437	20,458	7,092	13,366	46.81
川崎区	159	6,513	2,134	4,379	40.96
幸 区	70	3,554	1,243	2,311	50.77
中原区	37	1,547	604	943	41.81
高津区	51	2,417	840	1,577	47.39
宮前区	36	2,115	759	1,356	58.75
多摩区	59	3,105	1,115	1,990	52.63
麻生区	25	1,207	397	810	48.28

区別の老人クラブの状況（令和3年4月1日現在）



1.3 町会・自治会の加入世帯の状況

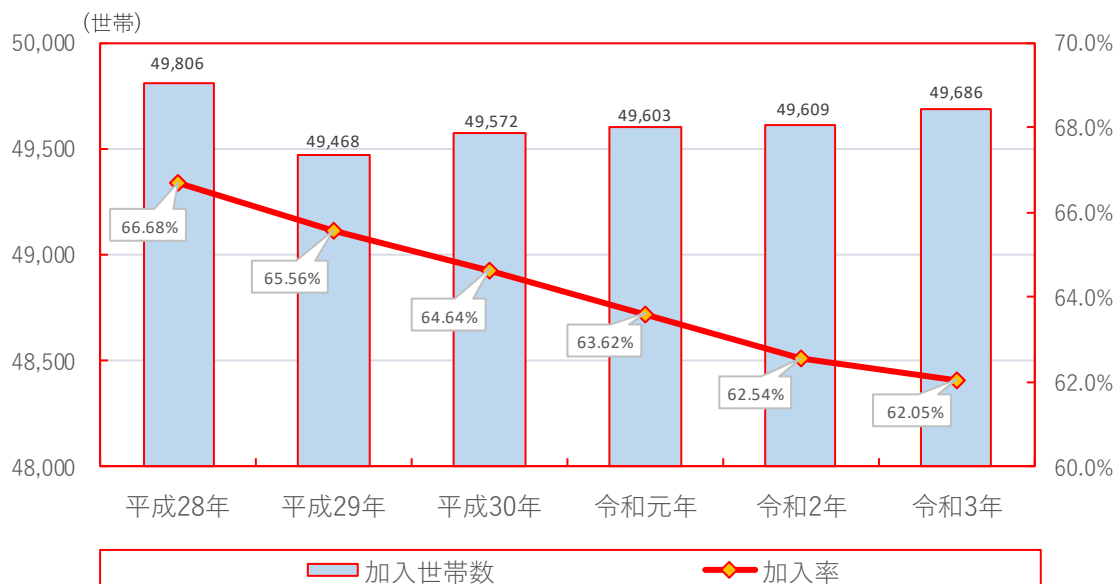
麻生区における町会・自治会の状況をみると、団体数は平成28年の125団体から令和3年まで増減なく推移している中、総世帯数は平成28年の74,694世帯から令和3年には80,072世帯となり5,378世帯、7.20%増加しているのに対し、加入世帯数は平成28年の49,806世帯から令和3年には49,686世帯となり120世帯、0.24%の微減で、総世帯数の増加に反して、加入世帯数は少なくなっており、加入率は4.63ポイント低下している。

また、1団体あたりの平均加入世帯数をみると、平成29年に減少し、その後は令和3年まで微増が続いている。

麻生区の町会・自治会の加入状況の推移（各年4月1日現在）

	団体数	総世帯数	団体加入世帯数	総世帯の加入率	1団体平均加入世帯数
平成28年	125	74,694	49,806	66.68%	398.45
平成29年	125	75,459	49,468	65.56%	395.74
平成30年	125	76,684	49,572	64.64%	396.58
令和元年	125	77,973	49,603	63.62%	396.82
令和2年	125	79,323	49,609	62.54%	396.87
令和3年	125	80,072	49,686	62.05%	397.49

麻生区の町会・自治会の加入状況の推移（各年4月1日現在）



市全体の町会・自治会の状況をみると、令和3年4月1日現在、団体数が651団体、団体加入世帯数は439,553人であり、総世帯数752,694世帯のうち58.40%が加入しており、1団体平均加入世帯数は675.20人となっている。

区別に町会・自治会の状況をみると、団体数が最も多いのは麻生区の 125団体で、次いで高津区が 108団体、多摩区が 100団体の順となっている。

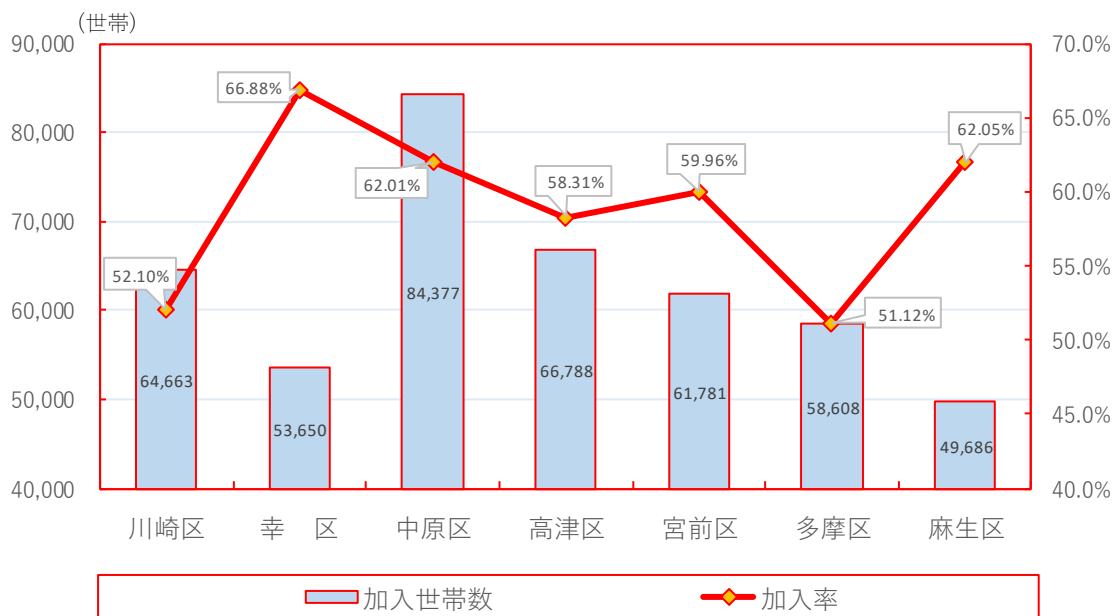
団体加入世帯数をみると、最も多いのは中原区の 84,377世帯で、次いで高津区が 66,788世帯、川崎区が 64,663世帯の順で、麻生区は 49,686世帯で最も少なくなっており、加入率が最も高いのは幸区の 66.88%で、次いで麻生区が 62.05%、中原区が 62.01%の順となっている。

1団体あたりの平均加入世帯数をみると、最も多いのは中原区の 1,081.76世帯で、次いで宮前区が 882.59世帯、幸区が 755.63世帯の順となっており、麻生区は 397.49世帯で最も少なくなっている。

区別の町会・自治会の加入状況（令和3年4月1日現在）

	団体数	総世帯数	団体加入世帯数	総世帯の加入率	1団体平均加入世帯数
全 市	651	752,694	439,553	58.40%	675.20
川崎区	99	124,105	64,663	52.10%	653.16
幸 区	71	80,219	53,650	66.88%	755.63
中原区	78	136,078	84,377	62.01%	1,081.76
高津区	108	114,544	66,788	58.31%	618.41
宮前区	70	103,032	61,781	59.96%	882.59
多摩区	100	114,644	58,608	51.12%	586.08
麻生区	125	80,072	49,686	62.05%	397.49

区別の町会・自治会の加入状況（令和3年4月1日現在）



1.4 民生委員児童委員の状況

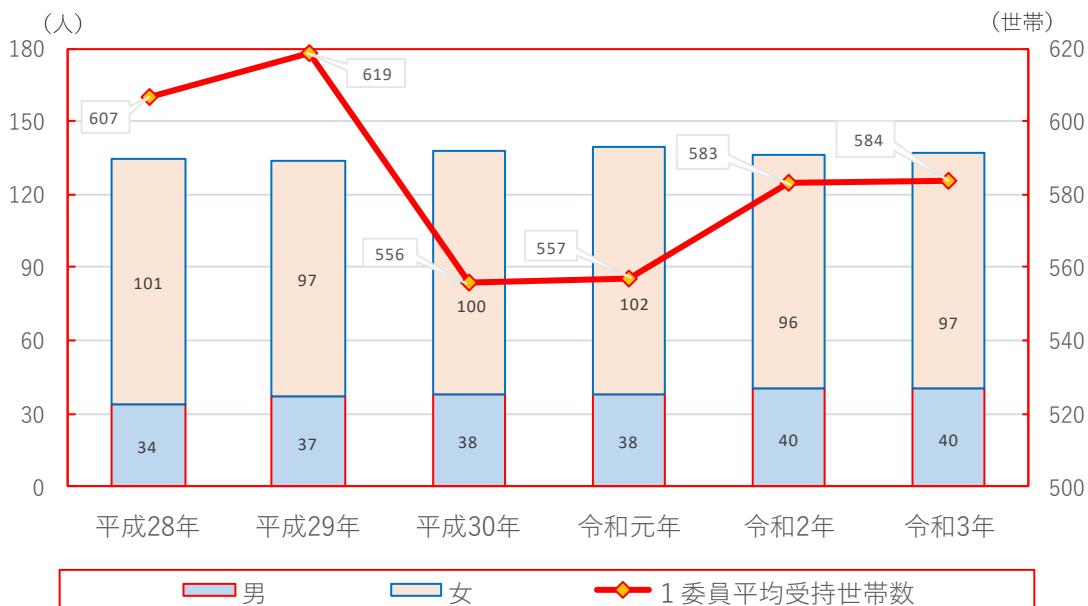
麻生区における民生委員児童委員の状況を見ると、地区民生委員児童委員協議会数は平成28年以降6団体で、委員数は平成28年の135人から令和3年には137人となっており、男女別の委員数を見ると、平成28年は男性が34人であったのに対し、令和3年には40人と6人増加している。

1委員あたりの平均受持世帯数をみると、平成28年の607世帯から平成29年には619世帯に増加したが、平成30年に63世帯減の556世帯となった。その後、令和2年は、再び583世帯と増加となり、令和3年は、584世帯となった。

麻生区の民生委員児童委員の推移（各年4月1日現在）

区 分	民生委員協議会数	委 員 数			1委員平均受持世帯数
		総 数	男	女	
平成28年	6	135	34	101	607
平成29年	6	134	37	97	619
平成30年	6	138	38	100	556
令和元年	6	140	38	102	557
令和2年	6	136	40	96	583
令和3年	6	137	40	97	584

麻生区の民生委員児童委員の推移（各年4月1日現在）



市全体の民生委員児童委員の状況を見ると、令和3年4月1日現在、地区民生委員児童委員協議会数は56団体、委員数は1,656人であり、男女別の構成比は男性が520人で、全体の1/3となっている。また、1委員あたりの平均受持世帯数は496世帯となっている。

区別に民生委員児童委員の状況をみると、協議会数は川崎区の10団体が最も多く、次いで中原区が9団体、幸区、宮前区及び多摩区が8団体となっており、麻生区は6団体で最も少なくなっている。

委員数が最も多いのは川崎区の402人で、次いで中原区が269人、宮前区が223人の順で、麻生区は137人と最も少なくなっている。また、男女別の会員数をみると、最も男性委員が多いのは多摩区の100人で、次いで川崎区が88人、中原区が78人の順で、麻生区は40人で最も少なくなっている。

1委員あたりの平均受持世帯数をみると、最も多いのは麻生区の584世帯で、次いで高津区が579世帯、多摩区が521世帯の順となっている。

区別の民生委員児童委員の状況（令和3年4月1日現在）

区 分	民生委員 協議会数	委 員 数			1 委員平均 受持世帯数
		総 数	男	女	
全 市	56	1,656	520	1,136	496
川崎区	10	402	88	314	372
幸 区	8	207	69	138	388
中原区	9	269	78	191	506
高津区	7	198	74	124	579
宮前区	8	223	71	152	462
多摩区	8	220	100	120	521
麻生区	6	137	40	97	584

区別の民生委員児童委員の状況（令和3年4月1日現在）



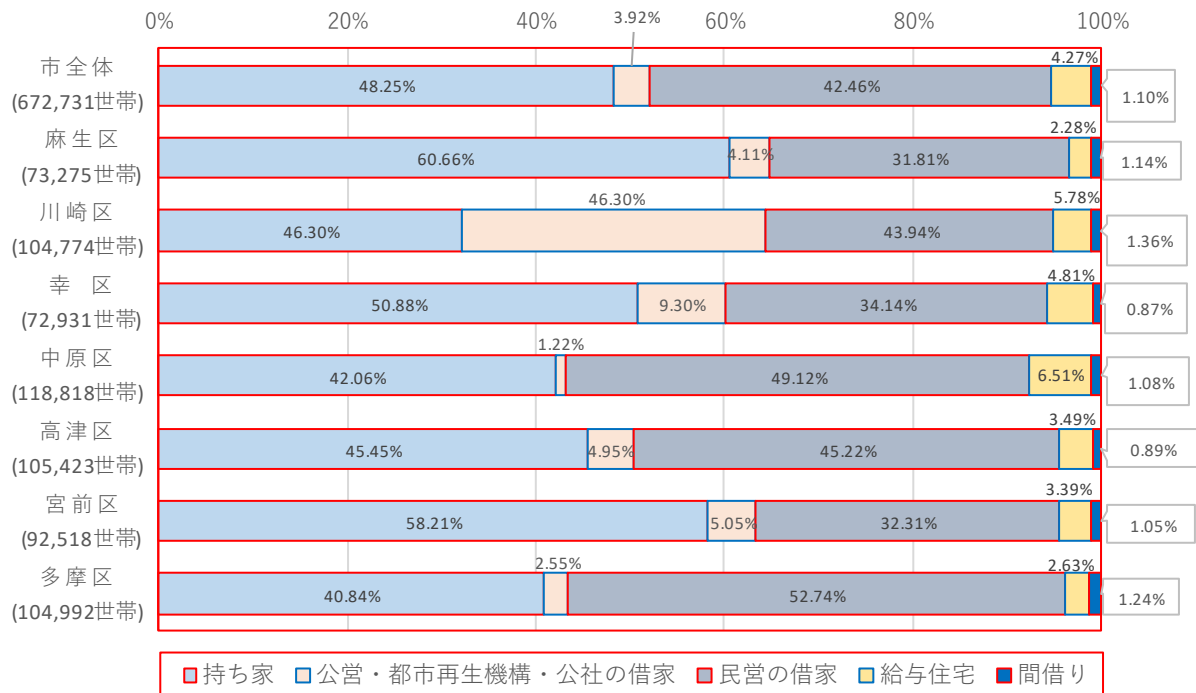
15 住まいの形態

本市の住宅に住む一般世帯数をみると、最も多いのは「持ち家」で全体の 48.25%を占めており、次いで「民営の借家」が 42.46%、「給与住宅」が 4.27%の順となっている。

区別にみると、「持ち家」比率が最も高いのは麻生区で 60.66%、次いで宮前区が 58.21%、幸区が50.88%の順となっており、この3区で5割を超えている。

「民営の借家」比率が最も高いのは多摩区で 52.74%、次いで中原区が 49.12%、高津区が 45.22%の順となっており、麻生区は 31.81%で最も低くなっている。

区別の住宅に住む一般世帯数・構成比（令和2年10月1日現在）



区別の住宅に住む一般世帯数・構成比（令和2年10月1日現在）

区分	総数	主世帯					間借り
		総数	持ち家	公営公社の借家	民営の借家	給与住宅	
全市	734,948	726,869	354,581	28,827	312,066	31,395	8,079
構成比%	100.00%	98.90%	48.25%	3.92%	42.46%	4.27%	1.10%
川崎区	119,329	117,711	55,248	3,126	52,435	6,902	1,618
構成比%	100.00%	98.64%	46.30%	2.62%	43.94%	5.78%	1.36%
幸区	78,589	77,905	39,985	7,307	26,829	3,784	684
構成比%	100.00%	99.13%	50.88%	9.30%	34.14%	4.81%	0.87%
中原区	132,038	130,610	55,535	1,612	64,863	8,600	1,428
構成比%	100.00%	98.92%	42.06%	1.22%	49.12%	6.51%	1.08%
高津区	112,308	111,310	51,047	5,557	50,788	3,918	998
構成比%	100.00%	99.11%	45.45%	4.95%	45.22%	3.49%	0.89%
宮前区	101,276	100,217	58,950	5,113	32,719	3,435	1,059
構成比%	100.00%	98.95%	58.21%	5.05%	32.31%	3.39%	1.05%
多摩区	112,510	111,117	45,953	2,869	59,335	2,960	1,393
構成比%	100.00%	98.76%	40.84%	2.55%	52.74%	2.63%	1.24%
麻生区	78,898	77,999	47,863	3,243	25,097	1,796	899
構成比%	100.00%	98.86%	60.66%	4.11%	31.81%	2.28%	1.14%

16 住宅の種類

本市の住宅の建て方をみると、最も多いのは「共同住宅」で全体の73.05%を占めており、次いで「一戸建」が24.69%、「長屋建」が2.01%の順となっている。

区別にみると、「一戸建」の比率が最も高いのは麻生区で42.25%、次いで宮前区が28.98%、多摩区が24.46%の順となっている

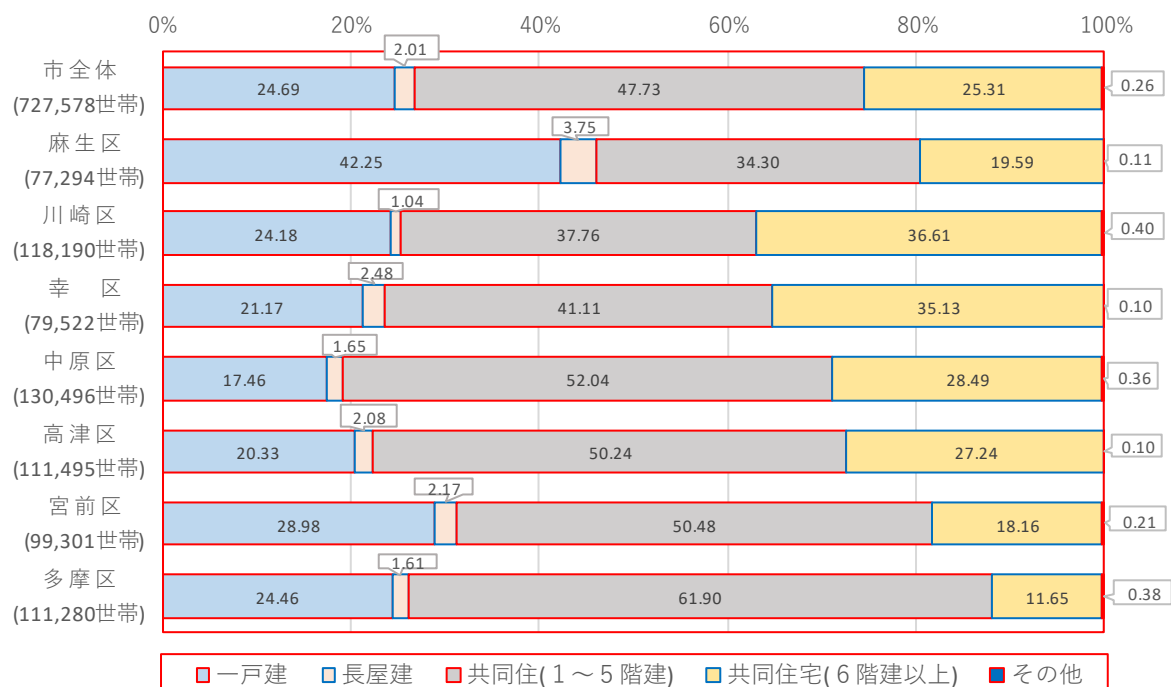
「共同住宅」の比率が最も高いのは中原区で80.53%、次いで高津区が77.48%、幸区が76.24%の順となっており、麻生区は53.89%で最も低くなっている。

区別の住宅の建て方（4区分）の状況（平成30年10月1日現在）

区 分	全 市	一戸建		長屋建		共同住宅			その他
		総数	2階建以上	総数	2階建以上	総数	1～5階建	6階建以上	
全 市	701,600	173,200	169,200	14,100	12,800	512,500	334,900	177,600	1,800
構成比%	100.00%	24.69%	24.12%	2.01%	1.82%	73.05%	47.73%	25.31%	0.26%
川崎区	110,210	26,650	25,970	1,150	980	81,970	41,620	40,350	440
構成比%	100.00%	24.18%	23.56%	1.04%	0.89%	74.38%	37.76%	36.61%	0.40%
幸区	78,080	16,530	16,280	1,940	1,790	59,530	32,100	27,430	80
構成比%	100.00%	21.17%	20.85%	2.48%	2.29%	76.24%	41.11%	35.13%	0.10%
中原区	124,730	21,780	21,280	2,060	1,910	100,440	64,910	35,530	450
構成比%	100.00%	17.46%	17.06%	1.65%	1.53%	80.53%	52.04%	28.49%	0.36%
高津区	108,500	22,060	21,630	2,260	2,150	84,070	54,510	29,560	110
構成比%	100.00%	20.33%	19.94%	2.08%	1.98%	77.48%	50.24%	27.24%	0.10%
宮前区	95,210	27,590	26,730	2,070	1,900	65,350	48,060	17,290	200
構成比%	100.00%	28.98%	28.07%	2.17%	2.00%	68.64%	50.48%	18.16%	0.21%
多摩区	109,710	26,830	26,010	1,770	1,590	80,690	67,910	12,780	420
構成比%	100.00%	24.46%	23.71%	1.61%	1.45%	73.55%	61.90%	11.65%	0.38%
麻生区	75,140	31,750	31,310	2,820	2,510	40,490	25,770	14,720	80
構成比%	100.00%	42.25%	41.67%	3.75%	3.34%	53.89%	34.30%	19.59%	0.11%

※ この結果数値は、表章単位未満の位で四捨五入しており、総数に分類不能・不詳等の数値を含んでいるため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しません。
 ※ また、結果数値は、市に関するものは100を単位とし、区に関するものは10を単位として表章しています。

区別の住宅の建て方（4区分）の状況（平成30年10月1日現在）



麻生区住宅の高齢者等のための設備状況をみると、約75,000世帯のうち、半数を超える40,000世帯以上で手すりなど高齢者等のための設備を備えている。

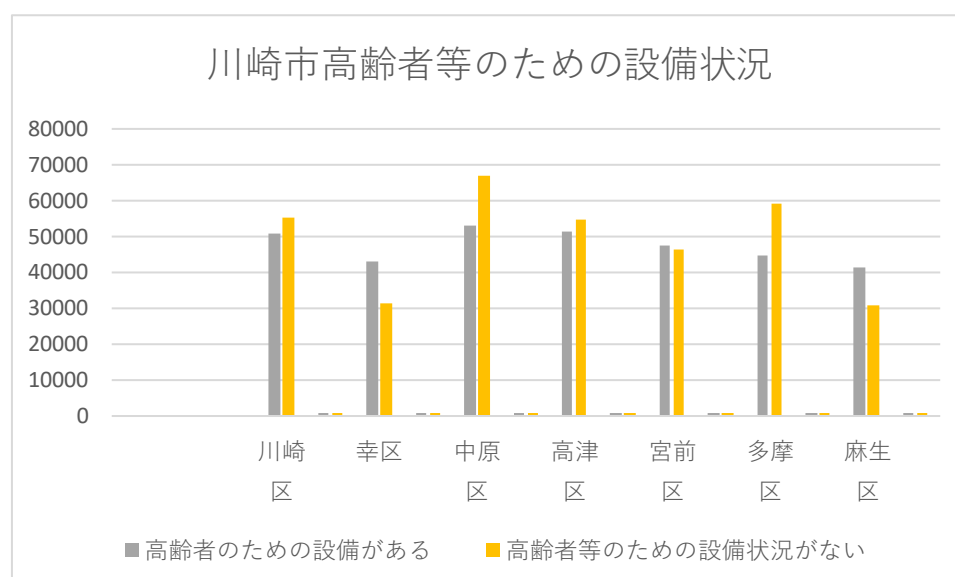
内訳では手すりが43.21%、またぎやすい高さの浴槽が24.26%、廊下などが車いすで通行可能な幅があるが17.50%、段差のない屋内が26.14%、道路から玄関まで車いすで通行可能であるが14.17%の順となっている。また、年齢階級が上がるにつれて、設備を備えている世帯の構成比も上がり傾向にあります。(注 設備は1世帯で複数設置しているため、総数は100%にはならない。)

高齢者等のための設備状況、世帯内の最高齢者の年齢階級(5区分)別主世帯数

世帯内の最高齢者の年齢階級(5区分)	総数	高齢者等のための設備状況 1)						高齢者等のための設備状況がない
		高齢者等のための設備がある						
		総数	手すりがある	またぎやすい高さの浴槽	廊下などが車いすで通行可能な幅	段差のない屋内	道路から玄関まで車いすで通行可能	
全市								
主世帯総数 2)	701 600	331 700	241 500	135 900	121 400	163 700	121 500	344 300
45歳未満	230 700	90 000	59 300	28 000	26 300	43 000	29 700	140 700
45～54歳	129 400	67 800	48 100	29 400	26 700	39 400	28 300	61 600
55～64歳	96 200	48 600	34 800	20 600	18 500	26 000	19 000	47 600
65～74歳	102 000	55 400	41 800	26 800	22 700	25 600	19 800	46 600
75歳以上	106 300	65 300	54 400	28 700	24 700	27 400	22 300	40 900
麻生区								
主世帯総数 2)	75 140	41 400	32 470	18 230	13 150	19 640	10 650	30 840
45歳未満	17 140	7 660	5 760	2 320	1 900	2 900	1 760	9 480
45～54歳	13 990	8 020	6 470	3 400	2 350	4 410	2 350	5 970
55～64歳	12 930	7 300	5 380	3 120	2 420	4 280	2 230	5 630
65～74歳	12 110	7 390	5 840	3 990	2 930	3 390	2 010	4 720
75歳以上	15 660	10 870	8 860	5 320	3 490	4 560	2 210	4 790

- 1) 高齢者等のための設備状況「不詳」を含む。
- 2) 世帯内の最高齢者の年齢階級「不詳」を含む。

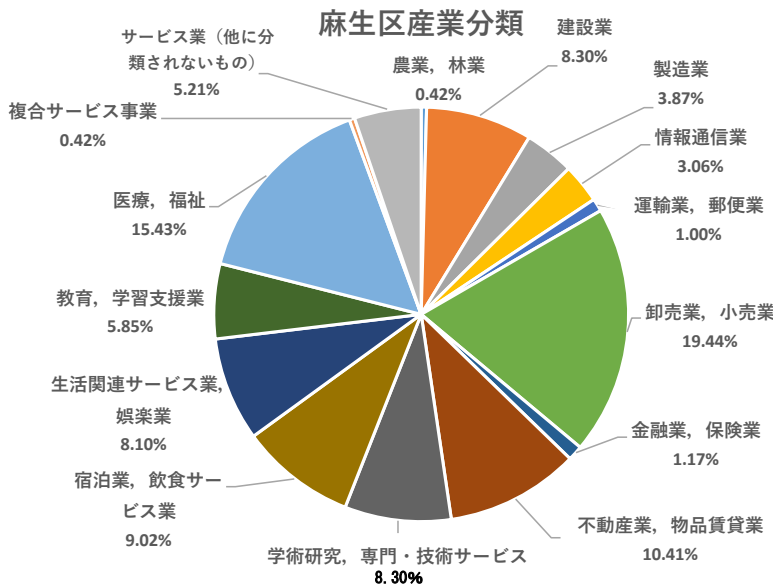
次のグラフは7区における高齢者等のための設備状況を表したものです。設備のある世帯とない世帯を比べると、川崎区、中原区、高津区、多摩区は、高齢者等のための設備がある世帯が少なく、幸区、宮前区、麻生区は、ない世帯の方が、やや多くなっている。



17 麻生区の産業分類

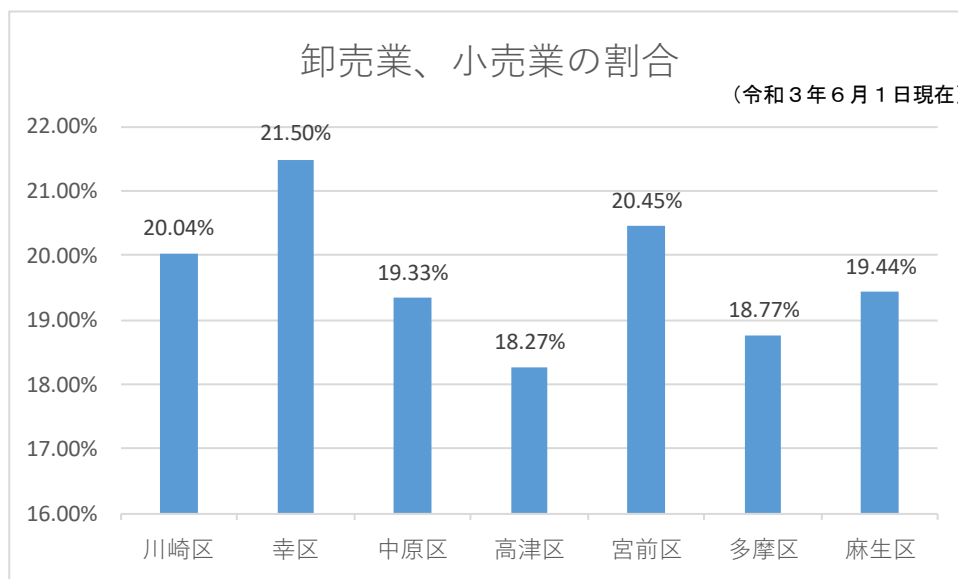
麻生区の産業分類別事業所数で、最も多いのは、卸売業、小売業の 19.44%、つづいて医療、福祉の 15.43%、不動産、物品賃貸業の 10.41%の順になっている。

麻生区産業分類表（令和3年6月1日現在）



麻生区産業分類表	事業所数
農業、林業	15
建設業	298
製造業	139
情報通信業	110
運輸業、郵便業	36
卸売業、小売業	698
金融業、保険業	42
不動産業、物品賃貸業	374
学術研究、専門・技術サービス業	298
宿泊業、飲食サービス業	324
生活関連サービス業、娯楽業	291
教育、学習支援業	210
医療、福祉	554
複合サービス事業	15
サービス業（他に分類されないもの）	187

下のグラフは麻生区産業分類で最も割合が多かった卸売業、小売業の7区の構成比を表したものです。最も高いのは幸区の 21.05%、次いで宮前区の 20.45%、川崎区は 20.04%の順となっている。7区ともに、産業分類別事業所数で卸売業、小売業の占める割合は多くなっている。



（令和3年6月1日現在）

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
卸売業、小売業	2,041	970	1,347	1,066	951	898	698
事業所総数	10,186	4,514	476,967	5,834	4,650	4,784	3,591
構成比	20.04%	21.50%	19.33%	18.27%	20.45%	18.77%	19.44%

18 産業別の従業員数（男女）

本市の男女別の産業分類表をみると、建設業、製造業、情報通信業、運輸業・郵便業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業は男性従業員数が多いのに対し、医療・福祉は女性従業員数が多くなっている。また卸売業・小売業は、川崎区、幸区、中原区、高津区は男性従業員数が多く、宮前区、多摩区、麻生区は女性従業員数が多い。

また、全産業の従業員数の合計を男女別にみると、川崎区、幸区、中原区は男性従業員数が多くなっているが、宮前区、麻生区は女性従業員数が多くなっている。

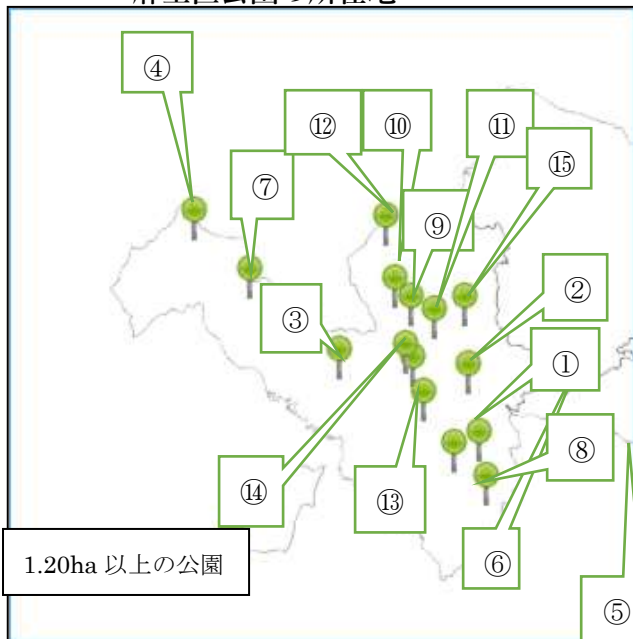
区別の産業別従業員数（男女）（令和3年6月1日現在）

産業大分類	川崎区		幸区		中原区		高津区	
	男	女	男	女	男	女	男	女
A～R 全産業（S公務を除く）	101 494	53 313	45 395	27 092	65 527	41 320	35 999	32 012
A 農業、林業	64	13	120	36	15	5	52	20
B 漁業	—	—	—	—	—	—	—	—
C 鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
D 建設業	9 296	1 486	4 122	722	2 461	624	3 221	786
E 製造業	22 796	4 964	9 134	1 860	13 840	2 759	5 666	2 667
F 電気・ガス・熱供給・水道業	261	34	177	15	21	3	141	19
G 情報通信業	5 628	1 181	4 758	1 072	13 994	3 228	1 488	568
H 運輸業、郵便業	17 974	3 600	2 066	391	2 078	709	2 597	473
I 卸売業、小売業	12 364	11 978	8 276	7 068	9 805	8 861	7 052	7 046
J 金融業、保険業	1 124	1 525	660	466	536	1 026	222	527
K 不動産業、物品賃貸業	2 127	1 314	730	633	1 776	1 681	1 868	1 530
L 学術研究、専門・技術サービス業	4 378	1 347	6 109	1 502	3 231	1 107	2 014	946
M 宿泊業、飲食サービス業	4 941	7 094	1 850	2 642	6 676	6 819	2 440	3 043
N 生活関連サービス業、娯楽業	2 125	2 359	1 325	1 370	1 324	1 670	1 073	1 348
O 教育、学習支援業	1 011	1 284	484	670	1 167	1 741	1 571	1 846
P 医療、福祉	3 991	10 307	2 596	6 696	4 952	9 212	3 092	8 342
Q 複合サービス事業	1 102	411	65	89	88	139	88	139
R サービス業（他に分類されないもの）	12 312	4 416	2 923	1 860	3 563	1 736	3 414	2 712

産業大分類	宮前区		多摩区		麻生区	
	男	女	男	女	男	女
A～R 全産業（S公務を除く）	22 738	25 522	21 509	23 205	19 838	23 543
A 農業、林業	53	28	81	16	92	38
B 漁業	—	—	—	—	—	—
C 鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
D 建設業	2 920	708	2 266	535	1 448	425
E 製造業	1 184	817	1 377	780	2 205	834
F 電気・ガス・熱供給・水道業	3	1	30	1	8	2
G 情報通信業	669	230	383	158	711	277
H 運輸業、郵便業	2 038	455	1 245	299	986	161
I 卸売業、小売業	5 686	6 044	3 963	5 079	3 551	4 876
J 金融業、保険業	126	327	195	400	222	411
K 不動産業、物品賃貸業	946	819	1 074	959	762	643
L 学術研究、専門・技術サービス業	477	344	997	481	1 376	755
M 宿泊業、飲食サービス業	1 602	2 109	1 933	2 472	1 464	2 359
N 生活関連サービス業、娯楽業	861	835	897	1 064	729	957
O 教育、学習支援業	1 595	1 673	2 046	1 921	1 604	2 034
P 医療、福祉	3 164	9 747	2 913	7 726	3 407	8 515
Q 複合サービス事業	331	307	82	116	281	197
R サービス業（他に分類されないもの）	1 083	1 078	2 027	1 198	992	1 059

19 麻生区の公園

麻生区公園の所在地



麻生区公園

	公園名称	所在地
①	王禅寺ふるさと公園 (旧 川崎市制60周年記念総合公園)	王禅寺5 2 8 - 1
②	王禅寺公園	王禅寺西3丁目2 8 - 1
③	片平公園	片平5丁目2 7 - 1
④	黒川谷ツ公園	はるひ野5丁目9
⑤	化粧面谷公園	王禅寺東5丁目4 2 - 1
⑥	鶴亀松公園	上麻生4丁目2 - 1
⑦	とんびいけ公園	栗木台3丁目1
⑧	虹ヶ丘公園	虹ヶ丘1丁目2 1 - 1
⑨	万福寺おやしろ公園	万福寺3丁目3
⑩	万福寺さとやま公園	万福寺5丁目1 9 - 1
⑪	万福寺檜山公園	万福寺2丁目2 2 - 1
⑫	向原の森公園	向原3丁目2 - 5
⑬	むじなが池公園	白山4丁目6
⑭	山口白山公園	上麻生3丁目5 - 1
⑮	百合丘第3公園	百合丘1丁目1 1 - 2

麻生区の公園数は、小さいものを入れると321箇所あり、川崎市7区の中では、最も多くなっている。上の表は、麻生区で面積が1.20ha以上の公園となっており、その中では王禅寺ふるさと公園が、104,676㎡と最も広大であり、川崎市内でみると、多摩区の生田緑地が最も広く、862,590㎡となっている。

川崎市公園数

川崎市公園数	
川崎区	147
幸区	98
中原区	101
高津区	152
宮前区	213
多摩区	145
麻生区	321

区別の一番広い公園と面積 (㎡)

区内で一番広い公園	面積
富士見公園 (川崎区)	170,486
夢見ヶ崎公園 (幸区)	65,228
等々力緑地 (中原区)	435,914
多摩川緑地瀬田地区 (高津区)	73,112
生田緑地 (宮前区)	313,394
生田緑地 (多摩区)	862,590
王禅寺ふるさと公園 (麻生区)	104,676

麻生区基礎データ

項目	データ	単位	調査期日	
人口				
世帯数	80,725	世帯	令和4年4月1日	
人口	180,886	人	令和4年4月1日	
男性	87,205	人	令和4年4月1日	
女性	93,681	人	令和4年4月1日	
性比（女性＝100）	93.3		令和4年4月1日	
平均年齢	46.1	歳	令和3年10月1日	
15歳未満人口割合	12.5	%	令和3年10月1日	
15～64歳人口割合	63.1	%	令和3年10月1日	
65歳以上割合	24.4	%	令和3年10月1日	
外国人住民人口	2,924	人	令和4年3月末日	
昼間人口	139,785	人	令和2年10月1日	
昼夜間人口比率	77.4		令和2年10月1日	
人口動態				
出生	1,208	人	令和3年	
死亡	1,455	人	令和3年	
転入	9,810	人	令和3年	
転出	9,594	人	令和3年	
事業所（民営）				
事業所数	3,591	事業所	令和3年6月1日	
従業者数	43,508	人	令和3年6月1日	
農業				
販売農家戸数	135	戸	令和2年2月1日	
自給的農家戸数	141	戸	令和2年2月1日	
工業				
事業所数	57	事業所	令和2年6月1日	
従業者数	2,550	人	令和2年6月1日	
製造品出荷額等	42,123	百万円	令和2年6月1日	
付加価値額	20,786	百万円	令和2年6月1日	
商業				
卸売業	事業所数	94	事業所	平成28年6月1日
	従業者数	630	人	平成28年6月1日
	年間商品販売額	22,727	百万円	平成28年6月1日
小売業	事業所数	500	事業所	平成28年6月1日
	従業者数	6,163	人	平成28年6月1日
	年間商品販売額	128,067	百万円	平成28年6月1日
教育				
幼稚園	園数	8	園	令和3年5月1日
	園児数	1,776	人	令和3年5月1日
認可保育所	施設数	33	園	令和3年4月1日
	児童数	2,658	人	令和3年4月1日
小学校	学校数	17	校	令和3年5月1日
	児童数	10,027	人	令和3年5月1日
中学校	学校数	9	校	令和3年5月1日
	生徒数	5,010	人	令和3年5月1日
治安・災害				
交通事故発生件数	331	件	令和2年	
刑法犯認知件数*	413	件	令和2年	
火災発生件数**	33	件	令和2年	

* 麻生警察署管内における件数

** 麻生消防署管内における件数

発行日 2023年2月17日
発行 麻生区役所まちづくり推進部総務課
電話 044(965)5109
Mail 73soumu@city.kawasaki.jp

